

再考・中空耳環 －島根県内出土例を理解するための一試案－

岩 橋 孝 典

は じ め に

筆者はかつて、島根県隱岐郡知夫村に所在する高津久横穴墓群から出土した中空耳環について考察を試みたことがある（2020井谷・岩橋・吉松・西尾）。拙速で遗漏の多いものであったが中空耳環の全国的な集成を行って、その空間的・時間的分布と性格の変遷などを抽出することができた。しかし、高津久横穴墓群で出土した中空耳環の評価・意義付けに特化した論考であり、かつ紙幅にも限りがあったため、中空耳環が持つ本来的な意味合いについては断片的にしか言及できていない。

中空耳環の集成作業は完璧を極めることが困難なものであるが、前回提示した集成一覧からは大幅に補遺作業を進めている。これをもとに再び中空耳環の持つ歴史的価値を紐解いてみたいと思う。

第1章 中空耳環研究史

耳環は、考古資料の中でも出土数量が多く、そして全国各地の後期古墳・横穴墓から普遍的に出土する、と一般的に考えられている。しかし、金工史・分析科学の泰斗である村上隆氏が指摘するように耳環の出土数は全国で数万点に及ぶとみられるが、全国的な悉皆調査は行われておらず、その出土数や地理的な分布状況については実は全く不明なのである（村上1997、2002）。

そして、単純な形態や時間経過による型式変遷の乏しさからか、考古学的手法による研究は思いのほか少なく、むしろ分析科学分野からの材質や製作技術に関する調査研究が先行し、厚い蓄積がある。⁽¹⁾

耳環はその構造から、内部に銅芯などの心材が存在して空洞のない「中実耳環」と、被覆材の内部に銅管があつてその内側が空洞になっている「中空耳環」の二つに大まかには分類することができる。

その中で「中空耳環」は、耳環全体の中で極めて少数派であり稀少性を持つことから、考古学・分析科学の両面から先行研究が行われている特異な存在でもある。

小池寛氏は1987年に発表した論考によって、初めて中空耳環の全国的な集成作業を行い、時間的・空間的な分布状況を確認したうえで分析、性格付けを行っている（小池1987）。中空耳環研究の幕開けとなる画期的な論考であり、今もなお必読の論考として存在感を示すものである。

その後、村上隆氏は分析科学の分野（耳環資料をX線透視撮影、蛍光X線分析、光学顕微鏡、分析型電子顕微鏡による観察など）から中空耳環の製作技法、構造、素材について検討を進めている。それによると中空耳環は厚さ0.8mm程度の銅板を巻いて銅管の形状を作り、銅板端部の重なり部分は銀鑑（銀と銅の合金で融点は780～900°C）を用いて接合を行っている事例を確認した。また中空耳環の両端開口部を塞ぐために別材の円形銀盤を水銀アマルガム技法で接合した事例を指摘している。

村上氏の研究によって、耳環は個体ごとに製作技法、使用する金属材料、重層構造、接合方法、鍍金か金貼りかなど多様な組み合わせで製作されていることが確認され、当時の金工技術の粋が凝縮している重要な遺物であることが指摘された（村上1991、1995、1997、2001）。

また、渡辺智恵美氏も同様に分析機器を駆使して、耳環の構造、材質、製作技法を検討し、銅をベース材として、銀を被覆材あるいは表装材、金を表装材として使用していることを確認している。そして接着剤として銀鑑が用いられることや水銀アマルガム技法が使用されるものがあることを指摘している。なお、一部の耳環は錫や

鉛を素材としているものがあることに言及している（渡辺1997、2003、2012a、2018）。

さらに渡辺氏は、中空耳環の製作技法について村上氏の指摘した銅板巻き銀鑑付けの技法とは別に、型に嵌めて形成した半球状の二つの同形同大の環体を中心で合わせて鑑付けをする技法を確認した。このモナカのような部材接合技法は、朝鮮半島南部では普遍的な技法であることを指摘するが、日本では経ヶ岡古墳（愛媛県四国中央市）で事例があることを紹介している（渡辺2012b）。

考古学的観点から、松本百合子氏は主に奈良県下の群集墳出土の耳環を集成・分類して時系列的な耳環の型式変化を指摘した（松本1991）。そこでは、断面が細身の純金・純銀耳環が5世紀末～6世紀前半に現れ、6世紀前葉から銅芯金銀貼り・鍍金の中実耳環が出現したとする。その後6世紀中頃から末にかけて、銅芯の中実耳環は断面径が次第に太くなり、耳環自体の外径も大型化する傾向を指摘している。7世紀に入ると中実耳環の断面形が円形から橢円形に変化し、全体が小型化する傾向が看取される。そして、7世紀中葉前後には耳環生産は終了するとしている。

このなかで松本氏は、中空耳環は6世紀末から7世紀前半に現れることを指摘している。松本氏の示す耳環変遷図では、7世紀初頭を境に中実耳環から中空耳環に置き換わるような印象を受けるが、実際には中実耳環は7世紀前半においても圧倒的に耳環の主体であり、中空耳環の方が少数派である。

このように松本氏の分類は、耳環の型式変化を俯瞰するのには大変有意なものであるが、松本氏も記されているとおり、中空耳環について全国的な変遷傾向として援用する際には注意が必要である。特に出現期である6世紀後葉の段階では、畿内地域だけではなく周辺地域で多く出現するなど、出現時期とその際に賦与された「財」としての性格は地域的な偏差の存在が考えられるからである。

辻村純代氏は耳環の装着方法、素材による地域性、耳環の大きさの時間的变化を指摘し、その中で中空耳環の意義付けを行っている。小池氏によって中実耳環よりも中空耳環の方が優位である可能性を指摘された点のうち、「地域的偏在」、「外径が大きい」という点は中空耳環の集成が進んだこの時点では希釈されて特異性を失っていると指摘するが、「古墳群の中では中核的古墳から出土」する点や「絶対数の少なさ」は有意な価値と認められるとして小池氏の提唱した中空耳環の持つ「政治的」な性格を支持している。また、素材が金、銀、銅に限定され、技術的にも中実耳環より高度なものである点からみてその製作・流通に特定の政治性を見いだしている（辻村1997）。

西山めぐみ氏は、福岡平野出土の耳環について、製作技術面から検討を行っている。その中で中実耳環と中空耳環の素材や製作技術の共通性を評価し、「財」としての差異については過大評価をしていない。むしろ地域ごとの製作工人の技術特性や地域社会のニーズに合わせた需給関係を評価する立場を取っている（西山2000）。

横田真吾氏は、宮内庁書陵部に所蔵されている熊本市宮穴横穴群出土の耳環78点をX線CT観察し、その意義付けを図るためにこれまでの耳環研究について俯瞰的に総括している。そして耳環の形式的な変遷を加工技術・素材の変化の視点も交えて論じられている。考古学的方法論をベースに分析科学の成果も加味されており、現時点では最も整理された耳環論といえるものである。

横田氏の指摘で重要な点は、明らかな銅管の構造を持つ中空耳環以外に芯材中央に細い空洞を持つ耳環に注目した点である。これまで渡邊氏、西山氏、村上氏が分析科学の観点から、薄い金板を巻いて環体を製作したため中央に狭小な空洞が残る耳環の存在を指摘していたが、このタイプの耳環は今後詳細な観察・分析によって数量が増える可能性があるものである。また、横田氏は特殊な耳環を除いた一般的な銅芯耳環や中空耳環は基本的に地域性がないと判断する。その理由としては「断面橢円形の銅芯耳環や中空耳環の分布に地域的な偏在がないこと、各時期で地域を越えて大きさが同様であること」を挙げている。

中空耳環のルーツについては、西山氏が朝鮮半島東南部（新羅・加耶）で製作される垂飾付耳飾の耳環部分の大型化に対応した重量軽減、材料節約の可能性を説いている（西山2002）。高田寛太氏は洛東江を挟んで向かい

合う新羅領西端の昌寧（3例）と大加耶東部の陝川（3例）で出土する垂飾付耳飾の主環が中空であることを指摘する（高田2021）。これは新羅の王都・慶州で出土する太環の中空耳環よりも日本で出土する中空耳環の形態に近いことや、6世紀前半の製作年代が考えられることから日本の中空耳環の有力なルーツ候補になると思われる。⁽²⁾

それに対して横田氏は、6世紀第4四半期を中空耳環の出現期と捉え朝鮮半島西南部（百濟）扶余の王興寺塔心礎（577年立柱）出土の耳環にルーツを想定している（横田2018）。

筆者は、前稿で拙速ながら全国の中空耳環集成を行い、空間的・時間的分布状況を確認した。その結果、6世紀後半段階では地域の首長墓クラスでの副葬が多く、7世紀に入ると首長墓クラスの古墳に加えて、群集墳や横穴墓群での副葬も顕著となって中実耳環との差異が見出し難くなることを指摘した。つまり、6世紀後半段階では「威信財」的な性格を持つのであるが、時代が下って7世紀に入ると「威信財」としての価値が低下し、通常の中実耳環と同等の性格に帰着すると推察した（井谷・岩橋・吉松・西尾2020）。

古くは近藤義郎氏の「農民と耳飾り」によって、ある程度富裕な農民層は耳環を所持していたと推察されているが（近藤1966）、7世紀代には中空耳環を入手した富裕農民（海洋民、塩民、山民などの諸生業民も含まれる）階層の存在も十分に考えられるのである（春成1997）。

ただし、6世紀後葉～7世紀中葉に至る1世紀近い中空耳環の存在期間のなかで、上記のような単線的な変化は全体的な変化の方向性としては首肯されるが、微視的には地域性と階層性による画期のズレが認められることは本論で後述する。

第2章 中空耳環の空間的・時間的分布

1987年の小池寛氏の論考の後、中空耳環について全国規模の悉皆調査は管見の限り知られない。但し、福岡県や香川県、長野県、近畿地方で個別地域の検討例があるが、中空耳環の具体的数量や全国的な分布濃淡については実像が見えにくい状況であった。

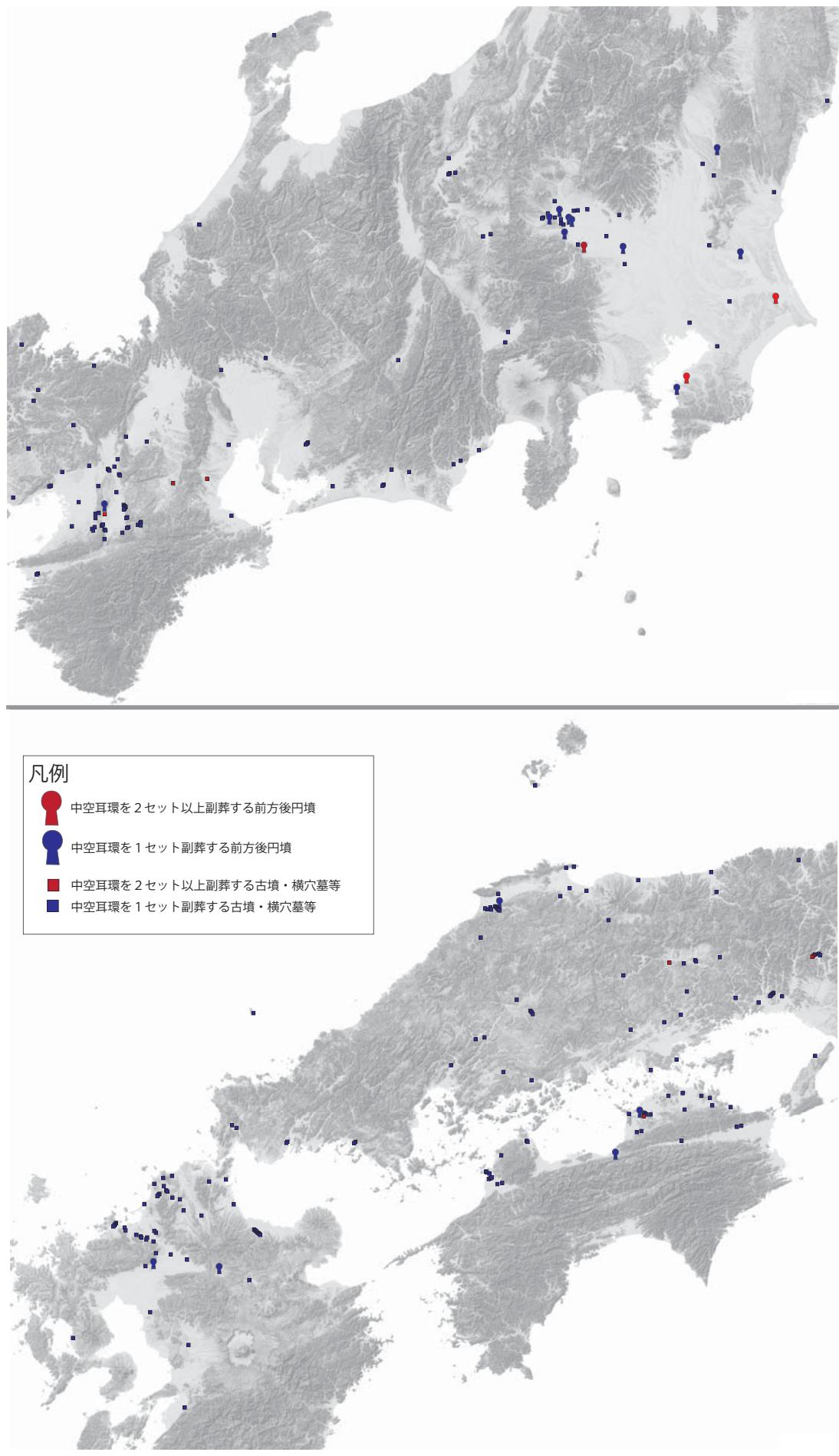
全国の中空耳環出土地については調査途中の不十分な情報ではあるが、小池寛氏の指摘するように九州北部や大阪府、奈良県に多く分布するほか、筆者の集成作業では岡山県・広島県の山間部、香川県、愛媛県など四国北岸にもやや濃密に分布が見られた。一方、紀伊半島南部や徳島県、高知県などの四国の太平洋側では出土数が少ない。また、九州中南部でも確認数が少ないなど西日本の中でも分布の偏在性が指摘できる。また、東日本では関東平野で分布が濃密であるが、東海甲信、東北南部地域の各県ではそれぞれ数例程度の確認数である。また、北陸南西部では若干例認められるが、北陸東北部では出土しておらず日本海側東部と東北地方では出土例が希薄である。この状況は群集墳や横穴墓など後期古墳の築造基數にも比例していると考えられる（第1図、第1表、第4表）。

具体的に中空耳環の出土数が多い地域としては、福岡県で54個体、奈良県で36個体、香川県で29個体、兵庫県で28個体、島根県で24個体、群馬県で23個体と続く。北部九州や近畿地方、関東地方の雄である群馬県で出土数が多いことはある程度想定できるが、香川県や島根県で出土数が多いことはやや意外に思われるところである。

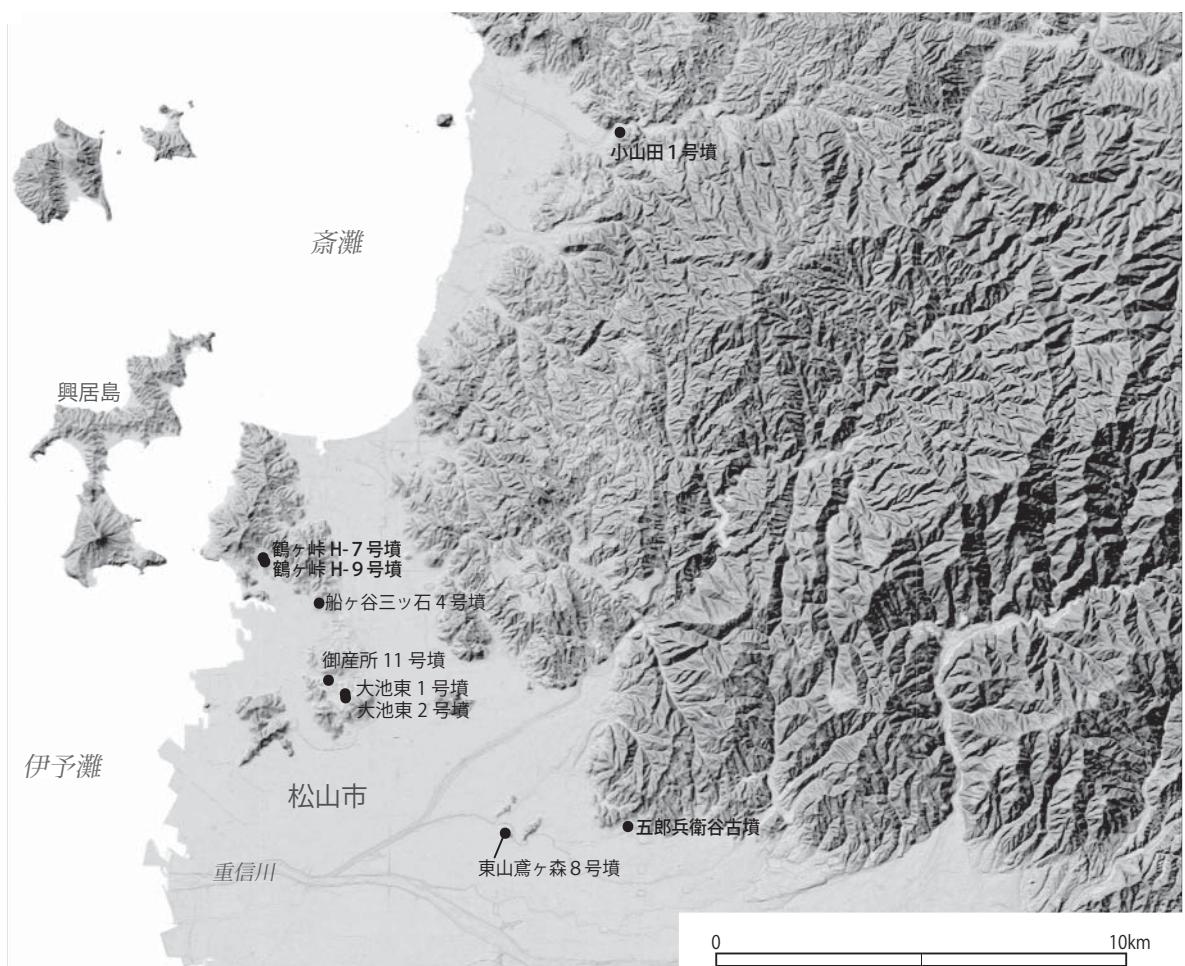
全国で中空耳環の確認数は381点余りであるが、耳環全体の総出土量が不明であるために全体の何%にあたるのか判然としない。島根県の事例では耳環は約700点出土しているので、中空耳環は耳環全体の中で3%強（24/700）という比率になる（第2図）。

また、長野県では桐原健氏の集計で779点の耳環が確認されている（桐原1998）。長野県での中空耳環出土数は9点なので中空耳環の比率は耳環全体の中で約1%程度となる。

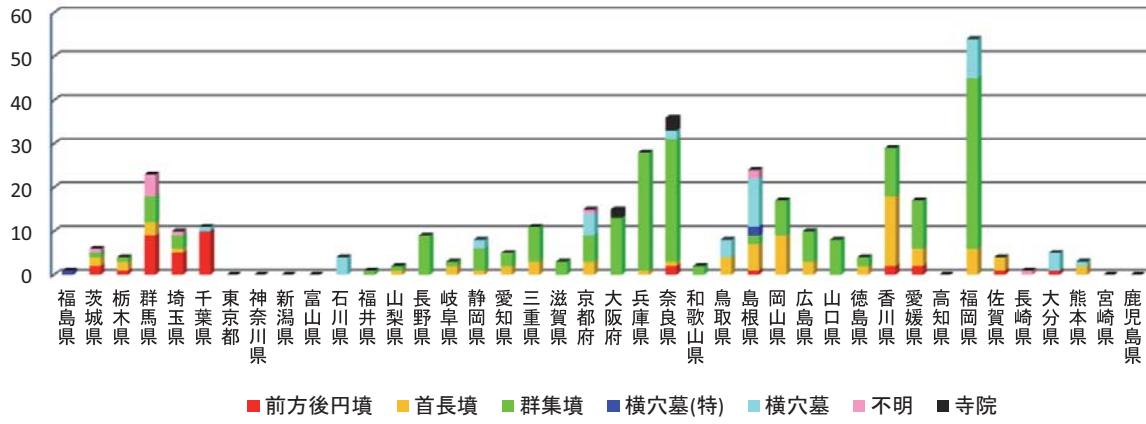
なお、やや狭い範囲であるが愛媛県の松山平野では渡辺智恵美氏らの集計によって約380個体以上の耳環が確認されている（渡辺ほか2002）。松山平野での中空耳環出土数は12点なので中空耳環の比率は耳環全体の中で3



第1図 日本における古墳時代後期～終末期の中空耳環出土遺跡分布図



第2図 出雲平野及び松山平野における中空耳環出土地



第1表 全国の中空耳環の遺構別出土数（都道府県別）

%強（12/380）である（第2図）。

耳環のおおよその母数が判明している島根県、長野県、松山平野の事例を見ても、中空耳環は耳環全体の1割にも満たない希少な存在であるが、この傾向は全国的にみても大差ないと想定される。

さて、中空耳環の時間的分布であるが、多くの場合で追葬可能な横穴式石室墳や横穴墓で出土することが多いため、個々の出土例で厳密な時間的位置づけは困難な事例が多い。このように制約はあるが、ここでは6世紀後葉（TK43）初葬、6世紀末（TK209）初葬、7世紀前葉（飛鳥I～II期）初葬の三段階に区分して考えてみたい。

中空耳環が出現するのは6世紀後葉（TK43）である。全国で28基前後の古墳出土例がこの時期に該当する。6世紀末（TK209）に初葬された古墳・横穴墓では、114基程度が該当する。7世紀前葉（飛鳥I～II期）に初葬が行われた古墳・横穴墓では約60基が該当する。

また、650～660年頃に創建されたとされる尼寺廃寺（奈良県香芝市）塔心礎から中空耳環3点が出土している。塔心礎付近に莊嚴具を埋納する事例で耳環を含むものは四天王寺、飛鳥寺、中宮寺、尼寺廃寺など大阪府・奈良県の事例だけであり、7世紀後葉以降の寺院莊嚴具、鎮壇具では耳環の埋納は見られない（平田2013）。

以上のことから中空耳環は、中実耳環に後出して6世紀後葉に出現し、600年前後に最盛期を迎える、7世紀中葉すぎに衰退したとする先学の指摘は首肯できるものである。

第3章 島根県内の古墳時代耳環について

島根県内の古墳時代耳環については、筆者の前稿以外にまとめた専論がないが、錫・鉛環などの特殊環については上山晶子氏が集成のうえ言及している（上山2016）。また、村上隆氏が安来市・大原遺跡1号横穴墓出土耳環について科学分析を行い、水銀アマルガム技法による鍍金を証明している（村上1994）。岩本真実氏は石見地域における後期古墳・横穴墓から出土する須恵器について、他地域との併行関係を確認するために共伴する耳環や大刀を手掛かりにする。概ね全国的に共通する変遷観を提示している前出の横田氏の耳環編年を援用して地域色の強い石見型須恵器を位置づけるための編年媒介として用いている（岩本2019）。

このように、島根県内の耳環研究の状況は全国的な傾向と変わることなく盛んであるは言いがたい。島根県内で出土している古墳時代の耳環全体の数量、空間的分布の粗密などを作業前提として知る必要があるため集成作業を実施した。その結果は前稿で示したとおりである。島根県内では、700点以上の耳環が出土しているが、6世紀前半期以前のものはほとんど知られておらず、6世紀中葉の上島古墳（出雲市）出土の銀環、薄井原古墳（松江市）出土の金環、林43号墳（松江市）の大小2対の金環などが古い時期の事例である。

■島根県内の中空耳環の分布とその意義

島根県内の中空耳環出土状況は、18遺跡から24点が出土している。島根県内の中空耳環の出土遺跡数や出土点数は、全国的に見ても上位に位置づけられる。

島根県内の中空耳環分布状況は、①隱岐郡知夫村の高津久2号横穴墓のほか、②中海・日本海に臨む海浜部に築造された福浦法田峠2号墳、海崎3号墳（松江市美保関町）、小汐手B-2号横穴墓（宍粟市）が近隣に可耕地がほとんど存在しないいわゆる「海を臨む古墳（横穴墓）」であることに特徴がある。この中には、鳥取県西部では数少ない中空耳環が出土している大塔谷C-8号横穴墓（米子市）例も包括して考えることができよう。

それに対して、③出雲平野周辺では、12基の古墳・横穴墓で中空耳環が出土している。さらに神戸川中流の谷川遺跡（飯南町八神）で出土している中空耳環も、神戸川水系を通じて出雲平野から流通したものと考えられよう。

さらに、④極めて特殊な事例として、宍粟市の鷺の湯病院跡横穴墓からは、国内に類例の無い太環式中空耳環が出土している。これは中空の環体端部に蓋をしないもので、新羅・皇南大塚北墳、皇吾洞古墳、北亭里10号墳（梁山夫婦塚）出土品など朝鮮半島の中でも新羅領域で出土する中空太環式耳環に酷似していることから新羅系の耳環とみられている。鷺の湯病院跡横穴墓からは金銅製歩搖付空玉も出土しているが、新羅において太環式中空耳環や金銅製歩搖付空玉の盛期が5世紀中葉～6世紀中葉前後であり、鷺の湯病院跡横穴墓では新納IV式（550年前後）の単鳳環頭大刀（百濟系）が伴うことから6世紀中葉を大きく降らない時期に築造された横穴墓と考えられる（松尾2001、鄭2004）。

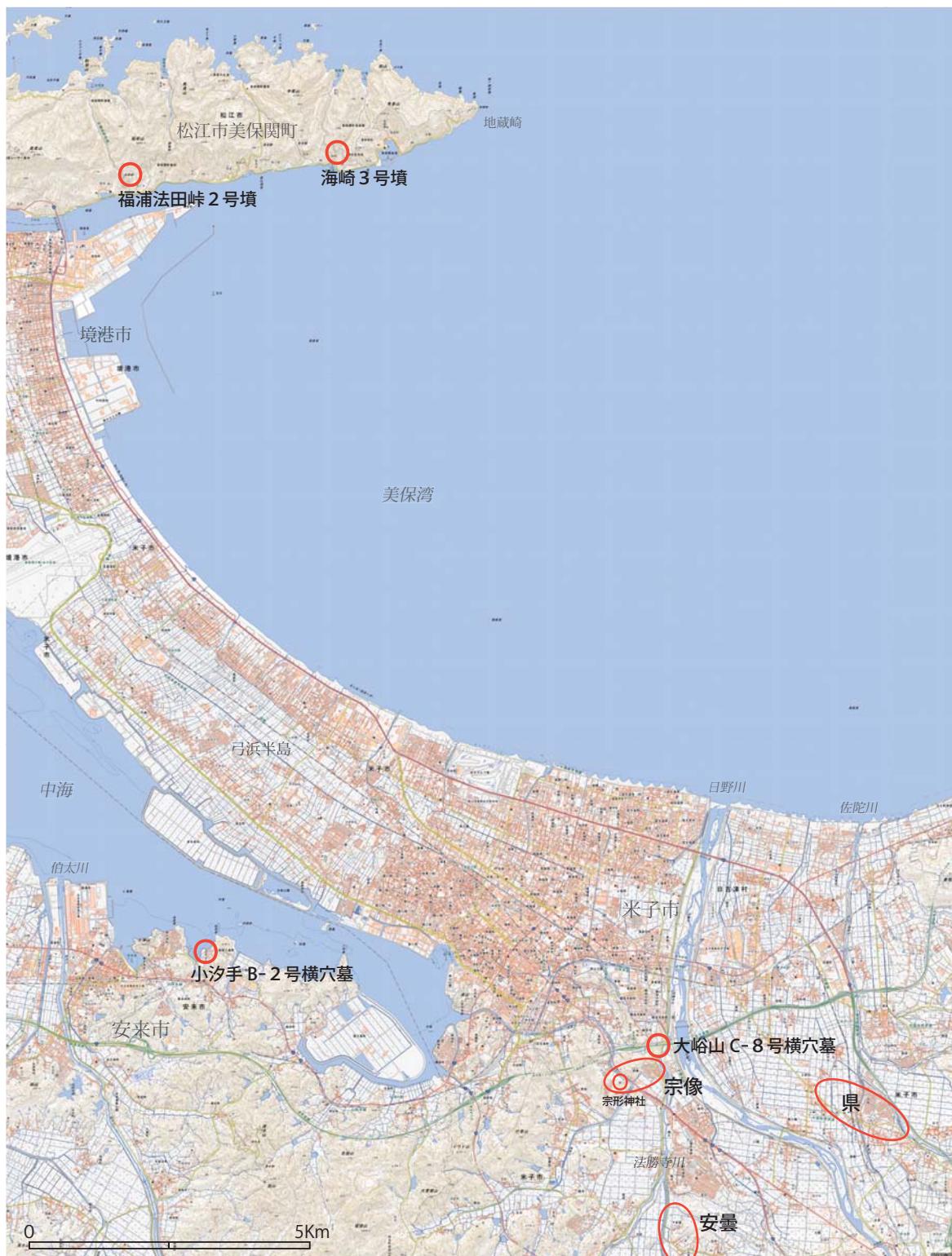
鷺の湯病院跡横穴墓は、全長50mの前方後円墳「寺輪古墳」が後背墳丘にあたるとみられており、洛東江左岸地域を出自とする渡来系の人物など非在地出身の特殊な被葬者像が考えられる古墳（横穴墓）である（大谷2019a）。

①の隱岐地域では高津久2号横穴墓から中空耳環が出土している。高津久横穴墓群では畿内（須恵器、土師器）や九州北部（メノウ製丸玉、ヒスイ製勾玉）に由来する遺物が見られる点から、これらの地域から招来された可能性もある。さらに後述するように中空耳環が集中して出土している出雲平野を起源地とみることも可能性の一つとして考慮しなければならないであろう。しかしながら最も関係性を重視されるのは、②の地域にある福浦法田峠2号墳、海崎3号墳（松江市美保関町）、小汐手B-2号横穴墓（宍粟市）、大塔谷C-8号横穴墓（米子市）の諸例であろう。この中海一島根半島東端の水域と日本海を介した海洋民集団間の交易により入手した可能性が第一に考えられる。いずれにせよ遠隔地を含む本土側との交易活動あるいは政治的配布によって隱岐島前にもたらされたものであることに変わりはない。

高津久横穴墓群の所在する知夫里島に関係する古代文字史料を検討した吉松大志氏は、智夫郡大井郷（大結郷）に居住する臣姓の服部氏に注目する（吉松2019）。吉松氏によれば、「隱岐国正税帳」には、天平四年（732）時点の智夫郡の郡司の署名があり、大領が「海部諸石」、主帳が「服部在馬」である。また、『日本後紀』延暦二十四（805）年十一月壬申条の記載から隱岐国の服部氏から采女の貢進が確認されることから、服部氏が7世紀後半～9世紀にかけて智夫郡の郡司階層であったことを指摘する。

服部氏はその名の通り東国においては概ね絹・白絹を産し貢納する国々に居住が認められるという。しかし、隱岐国からは絹・白絹の貢納例は認められない。『播磨国風土記』讚用郡弥加都岐原条には、中央の服部連と因幡国造の娘との婚姻関係を伝える記事があることから因幡地域と服部氏の関与を認める。実際に因幡国には法美郡に服部郷・服部神社が確認できる（『和名類聚抄』・『延喜式』神名下）

ほか、高草郡の東大寺領高庭庄の坪付帳（『大日本古文書 東南院文書』二276）に「服部小丸」の治田がみえる。このうち法美郡の服部神社（鳥取市福部町海土）は延喜式内社で康和元（1099）年には平時範が因幡守として下向した際にも参拝した由緒を持つ。また、古代に高草郡であった千代川左岸の鳥取市服部には服部古墳群、服部神社が所在している。



第3図 中海・美保湾沿岸の中空耳環出土地と海洋民關連地名

そして、隣接する東伯耆の倉吉市服部にも服部古墳群が存在することから鳥取県東・中部には服部氏がある程度集住していたと認められよう（第3図）。この倉吉市の服部11号墳からは鳥取県で唯一の外来系メノウ製丸玉、北部九州系のヒスイ製勾玉が出土しており（倉吉市1973）、同じく島根県内でも稀少な外来系メノウ製丸玉、ヒスイ製勾玉が出土している高津久2号横穴墓との僅かな接点が現れているうえに九州北部地域との関係性も見え興味深い（井谷2019、2020）。（^③）



服部 11号墳(倉吉市)出土玉類(左)



高津久 2号横穴墓出土玉類(右)



鳥取県倉吉市服部付近



鳥取県鳥取市服部付近



鳥取県鳥取市福部町海土付近

第4図 伯耆・因幡の「服部」関係地名・神社・遺跡の分布状況

なお、前出の「隱岐国正税帳」の天平四（732）年時点の智夫郡の郡司署名で、大領の「海部諸石」にも注目できる。鳥取市福部町の服部神社は字「海土」に所在し「県」地名も隣接することや、「因幡国戸籍簡（正倉院文書）」では郷名は不明なものの戸主海部牛麻呂戸に15名の海部、2名の伊福部が記されるなど服部氏と海部の親和性が認められる。松江市美保関町の福浦法田峠2号墳・海崎3号墳の事例や安来市の小汐手B-2号横穴墓の中空耳環出土事例もその立地から海部等の海洋民との関わりは十分に想定されよう。さらに大塔谷C-8号横穴墓（米子市）は西側に隣接して「宗像」や「安曇」地名がありここでも海洋民の存在が見て取れるのである。

また、大谷晃二氏は、鳥取県西部・日野川流域地域で石州府1号墳・同5号墳、岸本7号墳を三代の最高首長墳として、それらと同一形式の横穴式石室が分布し、装飾付大刀としては頭椎大刀、圭頭大刀の所有が認められるという。この範囲には美保湾対岸の島根半島東部も影響範囲に含まれることを指摘している（大谷2019a、2021）。この石室や装飾付大刀にみる領域性は、この地域における中空耳環の分布とも整合しており注目される。⁽⁴⁾

しかしながら現状では山陰本土側の服部氏と中空耳環所有の関係性は必ずしも明瞭ではなく、今後とも継続検討すべきテーマである。

高津久2号横穴墓で出土している中空耳環2点は環外径2.26cmと2.32cmと小型である。環径が2.5cm以下の中空耳環は全国で51個体が確認されているが、愛知県以西の西日本で43個体が出土しており西日本に分布が偏るものである。環径が小さい耳環は7世紀に入る新しい時期の所産とみるのが従前の理解であるが、中空耳環では6世紀後葉から小型の個体が知られており時間推移による大きさの変位は明瞭ではない。

なお、山口県萩市沖の日本海に浮かぶ見島の南岸に所在する見島ジーコンボ古墳群内の123号墳（7世紀後半）からは中空耳環が1点出土している（2017横山）。見島ジーコンボ古墳群は、その立地や7世紀後半～10世紀初頭という古墳築造期間の長さ、また武器類、装身具類、銅錢など一離島としては異様なほど質量ともに豊富な副葬品が見られる点が特筆される。当古墳群は、対新羅監視などの任務に当たるために畿内王権の施策により、見島に駐屯した軍事官僚層等が被葬者とみられている（下向井2008、横山2012、河野2020）。日本海西部域の離島防衛・監視という面で、畿内王権から重要な位置付けを付与されたという面では、隱岐と見島は相通じる部分があり、中空耳環がもたらされる時代的背景が見え隠れする。

そして③の出雲平野周辺の状況は他の島根県内の事例と比較して明らかに様相を異にしている。出雲西部地域で中空耳環が導入されたのは、半分古墳（全長40～45mの前方後円墳）、上塩治築山古墳（直径46mの円墳）など6世紀後葉に築造された首長墓に副葬されたものが初源である。7世紀に入っても三田谷4号墳、大梶古墳、美談神社2号墳など横穴式石室を主体部とする古墳からの出土が認められる一方、6基の横穴墓からも中空耳環が出土している。この横穴墓の内訳では、馬具（素環轡）や大刀、金糸が出土した上塩治横穴墓群22支群2号横穴墓や大刀、鉄鎌が出土している上塩治横穴墓群33支群7号横穴墓、大刀が出土している浅柄北7号横穴墓が含まれる一方、小浜山C-2号横穴墓のように鉄斧、刀子の供伴に留まる例もある。

出雲市内では16点の中空耳環が出土しているが、これは市町村単位でみれば群馬県高崎市と並んで全国1位である点は特筆される。しかも高崎市では東西18km×南北9kmの広域にわたって中空耳環が分布するのに対して、出雲市域の場合東西9km×南北9kmの範囲（美談神社2号墳を除けば東西6km×南北3kmの範囲）に収斂して分布しており、稠密な分布状況が顕著である。

出雲西部地域に対して、古墳時代後期～終末期に出雲地域全域の統括に成功したとされる出雲東部（意宇郡・島根郡）の有力首長層が築造した古墳・横穴墓においては、出雲平野を上回る数量の耳環が出土しているが、中空耳環は②の海浜部の事例が知られるだけである。

出雲平野の中で、中空耳環が集中的に出土している今市・塩治古墳群や上塩治横穴墓群の立地する地域では、中空耳環ばかりでなく、金糸（上塩治横穴墓群21支群10号横穴墓、22支群9号横穴墓）、金製指輪（同22支群9号横穴墓）、金を溶解した坩堝（三田谷I遺跡）、金箔剥片（上塩治横穴墓群40支群29号横穴墓）、金銅製歩搖

(上塩治横穴墓群40支群26号横穴墓)など、特異な金銀製品が集中的に出土している。

このような状況から類推される可能性として、中空耳環をはじめとした金銀銅などの非鉄金属を加工できる金工技術者達の存在と、製作地がこの近隣（上塩治・三田谷付近）に所在した可能性を指摘できる。このような金工集団を出雲西部地域の豪族が自前で抱えているのか、あるいは畿内地域の特定の豪族などから一時的に工人派遣を受けて出雲平野内で金工製品を製作しているのかにわかに判断しかねるが、一時にでも当地にて金工製作が行われていた蓋然性は高いものと考えられる。

第4章 中空耳環の性格付け

中空耳環の初源期は、6世紀後半（TK43）頃とみられる。TK43～TK209期に中空耳環が出土する古墳としては、風返稻荷山古墳（茨城県）、川崎古墳（栃木県）、綿貫觀音山古墳、八幡觀音塚古墳、前山古墳、五靈神社古墳、白石二子山古墳（群馬県）、三条塚古墳、城山1号墳、上総金鈴塚古墳（千葉県）、中田1号横穴墓（福島県）、小見真觀寺古墳、秋山庚申塚古墳、白石3号墳（埼玉県）、三里古墳、ハミ塚古墳（奈良県）、上塩治築山古墳、半分古墳（島根県）、菊塚古墳（香川県）、狐塚古墳（福岡県）、朝日天神山1号墳（大分県）など各地の有力首長墓が含まれることが特筆される。

関東地方では、後代の「国造」に連なると想定されている有力首長墓に副葬される傾向が指摘できる。小沢洋氏は三条塚古墳（千葉県富津市）の報告書中に千葉県内で中空耳環は「規模の大小はあるが前方後円墳から出土する傾向が強いといえる」とし、早くからその特質を看取している（小沢1990）。（第5図）

実際に中空耳環が副葬された前方後円墳は、関東地方12基、近畿地方1基、中国地方2基、四国地方2基、九州地方2基であり、関東地方では後期首長墳として築造された前方後円墳と中空耳環の組み合わせが調和的である。

一方、畿内政権の中枢地域では中空耳環の出土傾向はどのようなものであろうか。（第6図）

摂津・河内・和泉・山城地域では確実にTK43段階の副葬といえる中空耳環が知られておらず、奈良県内で少数の事例が知られているに過ぎない。奈良県の事例では、6世紀後葉（TK43）に築造された三里古墳（平群町：全長35mの前方後円墳で長さ12mの両袖式横穴式石室をもつ）、ハミ塚古墳（天理市：一辺46.7×44.1mの方墳で全長約12mの横穴式石室をもつ）が挙げられる。また、群集墳では6世紀後葉段階に龍王山B-2号墳（天理市）、寺口忍海H-22号墳・H-34号墳（葛城市）、高田垣内古墳群・室の谷1号墳（宇陀市）などで中空耳環が副葬されている。

ハミ塚古墳は広大な集落と鉄器・金属器生産域を含む布留遺跡群を統括する物部氏系の人物が被葬者と想定されている（土橋2003、河上2004）。また、ハミ塚古墳から高瀬川を挟んで南側の丘陵に築造された石上北A5号墳、ホリノヲ6号墳（ともに天理市：6世紀末～7世紀初頭）では中空耳環が出土している。これらの古墳は物部氏配下の工人長クラスの墓と解釈されていることも併せて物部氏が中空耳環の所有に関っていることが考えられる（泉森1980・1981）。

三里古墳は、石棚を持つ横穴式石室である点や近在に式内社の平群坐紀神社が鎮座することなどから畿内に進出した紀臣氏の墳墓と推察されている（河上1977）。平群谷の龍田川左岸に進出した紀臣氏は、7世紀中頃には大和川南岸の尼寺北廃寺（香芝市）の造営に関わったとされる（小笠原2000）。尼寺北廃寺の塔心礎柱座の底部に納められていた舍利莊嚴具には耳環12点が含まれていた。そのうち3点が中空耳環であったことから（香芝市2003）、中央豪族の中で紀臣氏は、比較的長期間にわたって中空耳環の保有率の高い氏族と考えられる。⁽⁵⁾

このように、畿内地域の有力豪族と中空耳環の接点は必ずしも多くない。6世紀後葉段階では、かろうじて紀臣氏や物部氏の関与が考えられるが、他の豪族については関連が判然としないのである。紀氏についても本貫地である紀ノ川流域では前山B36号墳、前山A87号墳（ともに和歌山市）での出土が知られる程度であり、他



第5図 群馬県内及び東関東地域の中空耳環出土地

地域に比べて傑出しているわけではない。大和に進出した紀臣氏と紀伊国に盤踞した紀伊国造系の紀直氏の差かも知れないが今後の検討が待たれるところである。

そして、6世紀後葉～7世紀中葉において畿内中枢で国政をリードした蘇我氏の場合はどうであったのか。明確に蘇我氏の墳墓と判定することは困難であるが、蘇我氏等が関与したとされる多くの古墳では中空耳環の出土は見られない。以下その代表的な古墳の状況を紹介する。

牧野古墳（奈良県広陵町）は押坂彦人大兄皇子が被葬者と推測される6世紀末に築造された直径45mの円墳である。出土している金環は外径2.35×2.45cmの銅芯中実耳環である（河上1987）。

藤ノ木古墳（奈良県斑鳩町）は、6世紀後葉に築造された直径45mの円墳である。出土している耳環は家形石棺内の北側被葬者が銀芯金貼耳環一対、南側被葬者が銅芯金貼耳環一対である。銀芯耳環の方は長径3.41cmと3.38cm、重さ35.528gと35.568gであり、銅芯耳環の方は長径3.51cmと3.52cm、重さ33.904gと33.521gである。6世紀後葉では国内でも随一の豪華で格式の高い馬具、装飾付き大刀、冠、履を副葬する当古墳においても中実耳環を副葬することは象徴的な事象として捉えられるであろう。

仏塚古墳（奈良県斑鳩町）は、6世紀後葉に築造された一辺23mの方墳であり被葬者に膳氏が想定されている。中実の金環・銀環各1点が出土している（斑鳩町教委1977）。

沼山古墳（橿原市）は、6世紀後葉に築造された直径18mの円墳である。ミニチュア炊飯具が副葬されていることから渡来系人物が被葬者と考えられる。出土している金環2点は外径2.6cmと2.4cmの中実銅芯金環である。

また、「日本書紀」では推古元（593）年一月十五日に法興寺（飛鳥寺）の塔の礎石の中に仏舎利を置き、翌十六日に法興寺の刹の柱を建てる記載される。この塔心礎に埋納された耳環23点の全てが中実耳環であることは蘇我氏と中空耳環の関係性をよく体現しているのであろう（奈文研1958、諫早2017）。

それに対して四天王寺（大阪市）では創建期の塔心礎から中空金管耳環2点が出土している。厩戸皇子が創建に関与する寺院からの出土として注意される（横田2018）。

このように、蘇我氏や蘇我氏系王族が関与すると考えられる墳墓・寺院では中空耳環の副葬・埋納が少ない傾向が見られることは、地方社会への分配者を考えるうえで重要と思われる。

ただし、蘇我氏配下とされる渡来系氏族の間では、中空耳環について製作・所有を行っていたと思われる事例があるので紹介する。法興寺（飛鳥寺）の塔心礎に埋納された耳環23点全てが中実耳環であることは既に述べたとおりである。「元興寺伽藍縁起并流記資材帳」に引用される飛鳥寺の塔覆盤銘には、塔の造立にあたった金工工人として忍海首辰星、朝妻首未沙乃、鞍部首加羅爾、山西首都鬼の名がみえる。忍海氏は忍海古墳群（奈良県葛城市）、朝妻氏はドント垣内古墳群（奈良県御所市）がその氏族墓域とされ、それぞれ中空耳環を出土する古墳が含まれている。

また、石舞台古墳から南東1.9kmほど冬野川を遡った地点に所在する細川谷古墳群の上5号墳からは中空耳環が出土している。この古墳は百濟に系譜を持つ穹窿天井の横穴式石室を内包し、ミニチュア炊飯具を副葬することから百濟系渡来人が被葬者とみられている（西村2003、田中2003）。

のことから推察すると蘇我氏一族や蘇我氏系王族は中空耳環との関連は薄いが、その配下の渡来系金工工人集団は中空耳環を保有しており、現象面から判明する一つの真理として面白い。

瀬戸内海沿岸では、中小規模の首長墳・群集墳での出土が比較的多くみられるが、前方後円墳や大規模な首長墳での出土例は少ない。その中で経ヶ岡古墳（愛媛県四国中央市：全長30mの前方後円墳）では、型に嵌めて形成した半球状の二つの同形同大の環体を中央で合わせて鑑付けをする技法で製作された中空耳環が出土している。この製作技法は朝鮮半島南東部の太環式耳環にルーツがあるが、渡辺智恵美氏によれば非常に稚拙な造作であるという（渡辺2012b）。経ヶ岡古墳からは大加耶系の楕円形忍唐文杏葉や銀製空玉、金銅装冠片などが出土しており朝鮮半島南東部地域との交渉がうかがえる。この中空耳環は新羅もしくは大加耶系工人の影響を受けて国内

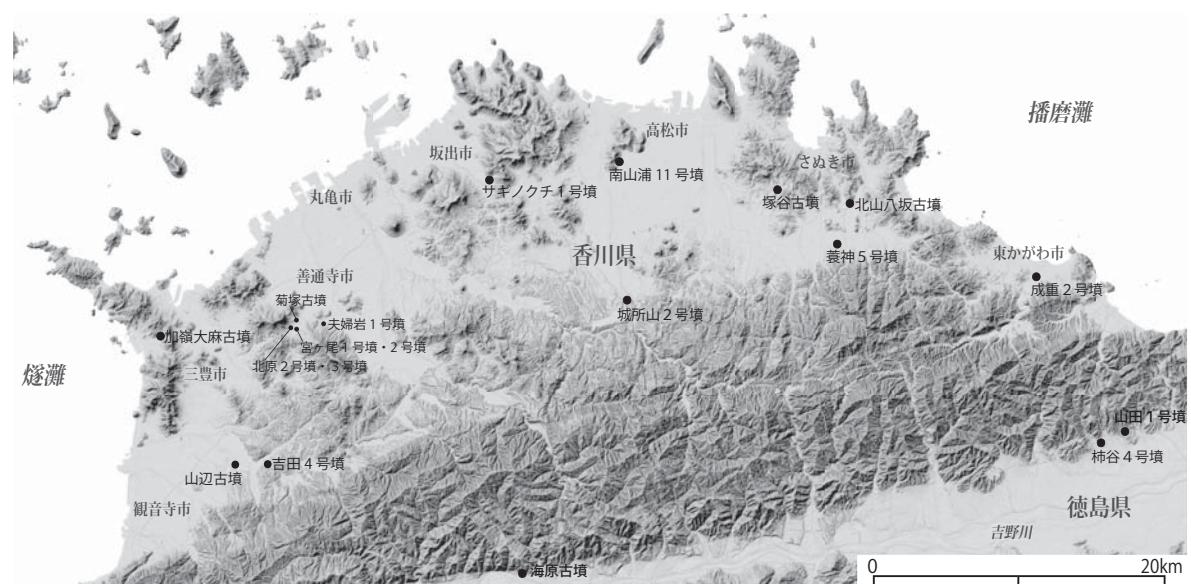


第6図 近畿地方中央部における中空耳環の出土状況

で製作された可能性が考えられよう。その場合、中空耳環の出現期の製作技法の事例として注目され、銅板巻き技法との関わりや併行関係の面からも注目される。

そして、九州地方では前方後円墳での副葬例として、朝日天神山1号墳（全長33m、大分県日田市）、牛原原田遺跡ST05（全長53m、佐賀県鳥栖市）が知られる。また、狐塚古墳（福岡県朝倉市）は直径40m以上の円墳で、全長15mに及ぶ複室構造の横穴式石室に線刻壁画を施す古墳であるが中空耳環の副葬が見られる。これらの有力首長墓と評価されている古墳は、筑後川中～下流域に分布している点は注目される。

一方、玄界灘に面する福岡平野縁辺部や遠賀川流域をはじめとした筑前地域の平野部では群集墳などの小規模古墳での出土例が圧倒的に多く、前方後円墳では出土していない。また、周防灘に面する豊前沿岸部（大分県中



第7図 福岡県北部及び香川県内における中空耳環出土地

津市、福岡県上毛町など) では横穴墓からの出土例が多く見られる。(第7図)

このように中空耳環の性格付けを再考すれば、小池氏・辻村氏の指摘する「下賜」を前提とした政治的性格(威信財)は6世紀後葉～7世紀初頭段階の状況と捉えられる。ただし、畿内の有力首長墳での出土が少なく、関東地方や出雲地域、筑後川流域地域の有力首長墳から出土が際立つ点からすれば中央からの「下賜」という視点・評価が適正であるのか再検討の余地はあると考えられる。

そして、7世紀初頭～前葉には西山氏の想定するように、畿内や各地に存在する中空耳環の製作技術を持つ金工房・工人を擁する特定豪族層からの供与ルートによって、通例の中実耳環と同等の価値をもって流通したものと考えられる。

しかし、関東地方や出雲西部地域のように6世紀後葉から7世紀前葉にかけて継続的に有力首長墓に中空耳環が副葬される地域もある。中空耳環を保有する階層性を含んだ地域的偏在状況を考慮すれば、大局としては7世紀代に至って中空耳環の価値は中実耳環と同等になると考えられるものの、局地的にはなおも「威信財」としての価値を持ち続けており、地域ごとの精査と価値付けが必要となるであろう。

畿内地域での出土傾向を検討したところ、中空耳環の製作・配布に関わったのは、物部氏や紀臣氏及び渡来系氏族などが考えられた。6世紀後葉～7世紀前葉にかけて政権の中枢に座り国政をリードした蘇我氏や蘇我系王族に関連する古墳・寺院等からの出土例は少ないようだ。

出雲地域では、出雲東部の在地豪族(のちの出雲臣氏)と中央豪族の蘇我氏、出雲西部の在地豪族(のちの神門臣氏)と中央大伴造の物部氏という両者の強い関連性はかねてより指摘がある(大谷1999、丹羽野・平石2015、池淵2017)。

そして、出雲西部の今市・塩冶古墳群周辺での中空耳環の集中現象は、中央「大伴造」の物部氏との関係性で説明できる可能性がある。平石充氏によって「出雲国大税賑給歴名帳」等の文献史料から出雲西部の物部氏系氏族の濃密な分布状況が示されており(平石2004・2005)、大谷晃二氏、松尾充晶氏による装飾付大刀研究では、中央豪族・地方豪族の所持する大刀型式の直接的な比較検討が不十分な状況を鑑みながら、抑制的ではあるが出雲西部出土の装飾付大刀を中央大伴造・物部氏との関係で捉えている(大谷1999、松尾2005)。

また、群馬県内では物部氏やそれと親縁とされる磯部氏の分布状況と中空耳環の出土状況は調和的である。また、物部本宗家滅亡後に上野地域の物部君の故地に入った壬生氏の分布とも重なっている(川原2005)。

さらに、瀬戸内沿岸(讃岐、伊予、安芸、播磨)での中空耳環の集中は、佐伯直氏、山直氏、久米氏などの関連が想定できる。香川県善通寺市南部の大麻山山麓の東西3km×南北1kmの範囲では菊塚古墳、北原2・3号墳、宮ヶ尾1・2号墳、夫婦岩1号墳から合計13個体の中空耳環が集中して出土している。後に弘法大師空海を輩出した当地の有力氏族である佐伯直氏と関連する可能性は高いであろう(国島1988)。

愛媛県松山市でも12点の中空耳環が出土しており、久米直氏(山直氏の祖)や風早国造(物部氏系)などとの関わりが考えられるであろう(白石1984)。

このように、物部氏、紀氏、大伴氏、佐伯氏、久米氏、山部氏、壬生氏のような6世紀以来の畿内政権を支える軍事氏族の分布と中空耳環の分布は一見すると親和的に見える。しかし、中空耳環について特定の氏族が製作を握りし、職掌などを通じて関連する地方豪族に配布したと結論するには不確定な要素が多いことや方法論的な手続きが未熟であるために未だ想像の域を出るものではない。改めて述べるまでもないことであるが、断片的に判明している古墳やその出土品と今日僅かに伝えられている文献や文字資料に現れる氏族を安易に接続して説明することは慎重であるべきであろう。

例えば、狭い地域で11個の中空耳環が出土している兵庫県多可町の東山古墳群・入角古墳群の事例を見てみよう。

当地は古代においては播磨国多可郡賀美郷に属する。菱田哲郎氏は正倉院文書の「知識優婆塞等貢進文」にあ

る「山直」氏を郡領クラスの氏族として、郷内ある播磨国最古クラスの古代寺院・多哥寺の檀越かつ東山古墳群の被葬者と想定する。山直氏の一族は「播磨国風土記」に記される播磨鴨国造（賀茂郡を領有）にも比定される有力氏族でもある。なお、南に隣接する多可郡奈河（中）郷では同文書に「宗我部」の人名が見え、平城京二条大路濠状遺構から出土した木簡に「播磨国多可郡中郷三宅里」と記された木簡があることから蘇我氏によるミヤケ設置を想定する（菱田2013、2019）。

このように東山古墳群・入角古墳群の近在には、蘇我系の部民が存在すると想定されるものの、より上位の郡領クラスに山直氏が存在することから蘇我氏の直接的な関わりは言及しにくい。また、播磨鴨国造の山直氏は上宮王家と近しい関係にある中央氏族の山部連氏と繋がると考えられているが、多哥寺の軒瓦の瓦当文様は法隆寺式系ではなく独自色が強いものであり東山古墳群の被葬者と上宮王家との直接的な関連性は現状では希薄と考えられる。

そして、横穴式石室の型式や構築技術からみて、播磨地域は讃岐や伊予など四国北岸地域と親縁性が高いとされている（中浜2001、樋本2009）。播磨国風土記に記載される四国の氏族との往来が反映しているものと考えられよう。

このように中空耳環が集中的に出土する地域で、かつ複数の史料に人名が表出している地域においてもその保有者を特定することは容易ではなく、今後とも継続的な検討課題とせざるを得ない。

第5章 小 結

耳環は村上隆氏が指摘するように全国的な悉皆的集成作業さえも行われておらず、日本中で何点出土しているのか、その概数さえ不明な状態である。中実耳環・中空耳環共に各地域での悉皆的集成作業を実施した上の分析検討が望まれる。

横田氏の指摘する「一般的な銅芯耳環や中空耳環には基本的に地域性がない」という認識は、一見すると蓋然性が高いようにも思える（横田2018）。しかしそれは悉皆調査を基にした時間的・空間的分布の把握という作業を等閑にしたまま到達した認知バイアスであり現状では首肯できるものではない。少なくとも中空耳環においては地域的偏在あるいは保有する階層の偏りもみられることが明らかである。

小池氏の指摘した中実耳環よりも中空耳環の方が優位である可能性のうち、「地域的偏在」、「古墳群の中では中核的古墳から出土」、「絶対数の少なさ」という項目は依然として有意な価値と認められる。「外径が大きい」という点は耳環全体の寸法の変化傾向に規定されているが、外径が大きく太身の耳環は「中空」である可能性が高い。

過去に報告されている耳環の中にはX線分析調査や重量計測がなされておらず、実測図にも断面の情報がないものがある。中空耳環の判断のために簡易な手法として、①手に持ったとき見た目に比べて「軽い」感触の個体、②通常の耳環に比べてころもち「太身」の個体は、中空耳環ではないかと疑うことから始めれば良いのである。⁽⁶⁾

島根県内の中空耳環の出土状況は、有力首長墓、中小古墳、横穴墓から出土するうえに、地理的な分布状況に明らかな粗密が存在するというように全国の中空耳環出土傾向の様々な要素が混在した縮図的な様相が認められる。その中で中空耳環を中心の特定氏族との関わりの中で比較的長期に渡って製作している可能性のある出雲平野での状況、中海周辺の海洋民集団間での流通・保有、中空耳環の最終局面で製作された製品とみられる隱岐・高津久2号横穴墓出土例など多様かつ重要な切り口からの研究視点が認められる事例が確認できた。

数多く出土している考古資料の中でも「耳環」は研究の遡上に上がることが少なく等閑視されているといつても過言ではない。このような資料群から導き出される研究は既存の研究の隙間をよく照らすものであることを確信して擱筆したい。

島根県古代文化センターでは、テーマ研究「国家形成期の首長権と地域社会構造」(平成26~29年度) 及び、「古墳時代の玉類の研究」(平成27~29年度) を実施した。それぞれの研究課題のケーススタディとして隱岐郡知夫村・高津久横穴墓群出土品の再整理を実施し今後の研究に資することとした。この整理作業によって高津久2号横穴墓から中空耳環が出土していたことが明らかとなったため、前論においてその意義付けを行った。

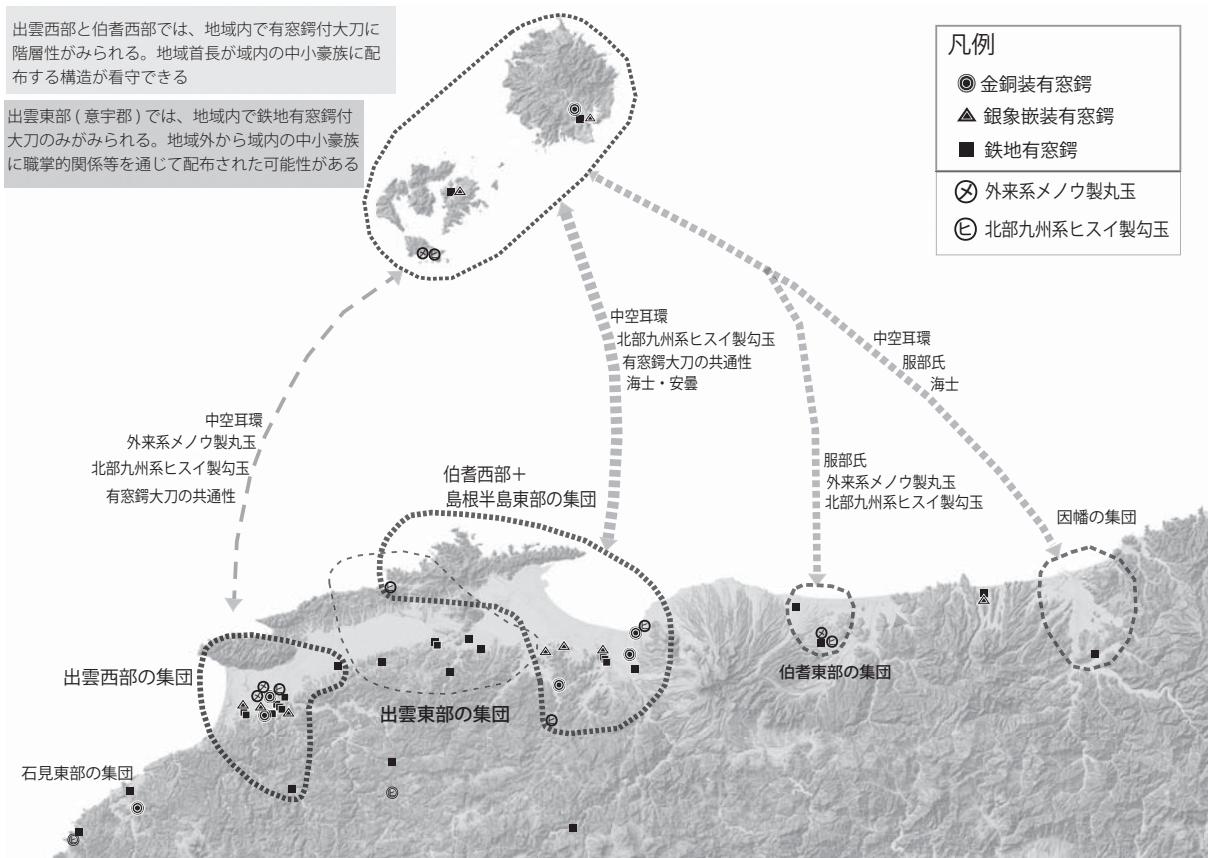
さらに、島根県古代文化センターでは、令和2年度～5年度にかけてテーマ研究「古代隱岐の形成と特質」を実施中であり、高津久横穴墓群出土の中空耳環について、山陰本土側との関係性及び全国的な視点から再検討を行って意義を見出す必要があることから本論を執筆したものである。本論の執筆には上記テーマ研究等の関係者である井谷朋子、市大樹、岩本真実、上山晶子、梅村大輔、大橋泰夫、勝部智明、久保田一郎、是田敦、澤田正明、中原斎、西尾克己、花谷浩、林部均、東森晋、松本岩雄、吉松大志、吉松優希からご意見、ご助言を頂いているが、筆者の実力不足からそれらの卓見を十分に咀嚼・反映できていない面があることをお詫びしたい。

また、田邊歩、敷正彦の各氏及び島根県埋蔵文化財調査センター、倉吉市立倉吉博物館、知夫村教育委員会には所蔵資料の写真掲載についてご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

【註】

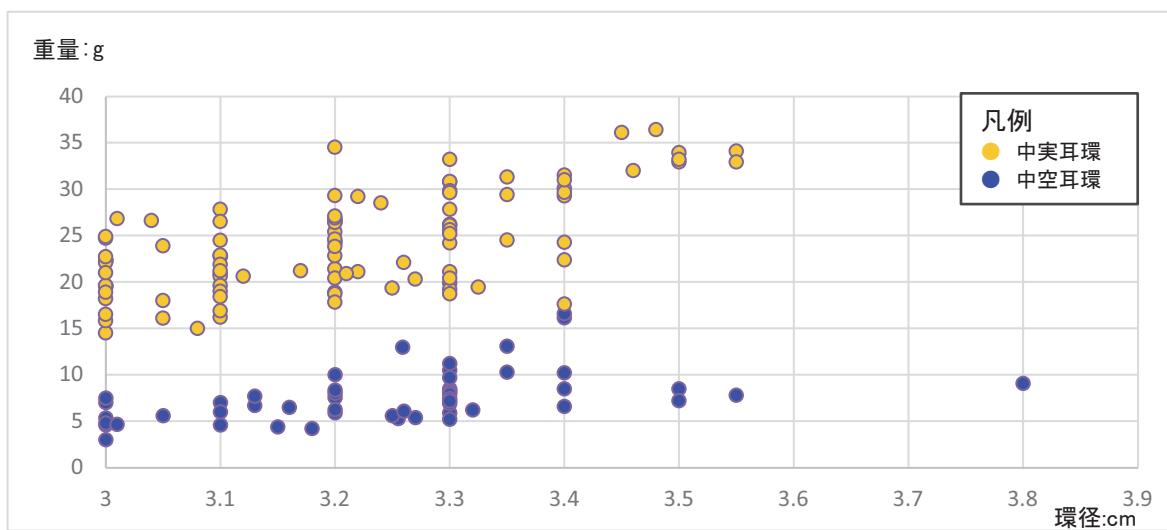
- (1) 耳環についての考古学的論考は、近藤1966、菅谷1976、小池1987、松本1991、有井1995、桐原1998などがある。一方、分析科学からの研究は、村上1991・1994・1995・1997・1998・2001・2002、渡辺1997・2002・2003・2012a・2012b、中村・竹森2020、竹井・藤澤2021などがある。近年では、考古学的立場から分析科学の成果を取り込んだ辻村1997・1999、野口1999、西山2000、横田2018や耳環の復原製作過程を検証した高橋2002、比佐2019などがあり、耳環研究に新展開がみられる。
- (2) 中空耳環の故地については、西山氏、高田氏の指摘する大加耶・新羅が有力と思われるが、中でも洛東江を挟んで向かい合う昌寧と陝川では日本の中空耳環に近いサイズのものが製作されている。盛矢具の変遷を検討した土屋隆史氏によれば大加耶の衰退・滅亡といった朝鮮半島南部でのインパクトにより、大加耶の金工工人が倭に流入し、盛矢具をはじめ装飾馬具、装飾付大刀においても製作工人集団の再編が行われた可能性が高いという（土屋2021）。中空耳環についても韓半島での分布状況や日本での出現時期を考慮すれば大加耶東部・新羅西部が技術的な故地と想定される。
- (3) 服部11号墳からは、鳥取県下で2例（もう1例は米子市淀江町の中西尾6号墳）しか確認されていない古墳時代後期の北部九州系のヒスイ製勾玉が確認されている。島根県内では6遺跡で8点の古墳時代後期の北部九州系ヒスイ製勾玉が確認されており、高津久2号横穴墓はその1例である。
- (4) 大刀の拵の中で、（象嵌の有無に関わらず）有窓鍔の山陰地域での分布状況は中空耳環のそれと極めて整合的である。出雲平野の有力首長墳・横穴墓、米子平野や日野川流域の有力首長墳で集中的に分布するほか、伯太川以東の安来市内でも3例発見されている。隱岐諸島でも大座西2号墳、平西2号墳（隱岐の島町）、唯山古墳（海士町）で出土しており、中海・日野川河口ー美保湾ー島根半島東端から隱岐諸島を結ぶルートはここでも鮮明に浮かび上がる（大谷2019b、吉松2019・2020・2021）。これらの地域では有窓鍔大刀の所有状況に金銀装>銀象嵌装>鉄地の階層が認められ、地域内での上位豪族から下位の階層への配布が想定される。
- その反面、意宇郡中枢部～伯太川西岸地域では有窓鍔付大刀は横穴墓に限定して出土しており、いずれも金銀装・象嵌装を施さない鉄地のものである。この地域では、畿内など地域外の勢力から職掌的関係において鉄地有窓鍔大刀が配布された可能性がある。（第8図・第3表）
- (5) 尼寺廃寺の造立氏族について、発掘調査報告書では茅渟王（皇極天皇の父親）をはじめとした敏達天皇系の王族を想定している（山下2003）。
- (6) 発掘調査報告書に耳環の報告がなされる場合、実測図、寸法計測、外観の観察所見までは通例行われることが多い。ただしこまでの情報では耳環が中空なのか中実なのか読者には判断できない。破断面がある場合や、X線撮影による内部状況の判断が示される場合は明確であるが、それが叶わない場合でも重量計測が実施してあれば中空・中実の判定に有意である。外径3cm以上の中空耳環であれば重量は15g以下であることが多い。同じサイズの中実耳環が概ね15g以上の重量があることから、両者の判別のための一定程度有効な判定指標となる。（第2表）

報告書中の耳環の取り扱いの差異は軽重様々であり、報告書による中空耳環の確認作業は容易ではない。第4表は精度の粗いものであるので今後各地域で中空耳環の集成が進むことを願うばかりである。



第8図 山陰地方における有窓鍔大刀の分布

第2表 中空耳環と中実耳環の重量比較



*中空耳環のサンプルは表3～表7の完形品から51点を抽出した。

*中実耳環のサンプルは以下の古墳出土品から97点をあげた。

瀬名3号墳(静岡市)、田頭山3号墳(三島市)、大谷A-21号横穴墓(掛川市)、高根山A16号墳(浜松市)、船木山154号墳、106号墳、97号墳、164号墳、271号墳、101号墳(本巣市)、高根1号墳(豊田市)、秋葉1号墳(豊田市)、炭焼平4号墳(愛知県一宮町)、膳棚3号墳(愛知県一宮町)、和田10号墳、11号墳(栗東市)、北大塚1号墳(京都府井出町)、郡川16号墳(八尾市)、一須賀D-2号墳、Q-9号墳(河南町)、西脇丸山2号墳(姫路市)、米里山際古墳(養父市)、太市中2号墳、10号墳(姫路市)、花立1号横穴墓(松江市)、小山田4号墳、7号墳(松山市)、宍谷4号墳(松山市)、船ヶ谷三ツ石4号墳(松山市)、大人塚古墳(伊予市)、向山2号墳(伊予市)、ロミノヲ谷古墳(南国市)、元岡G-1号墳(福岡市)、善一田2号墳(大野城市)、斐見大塚古墳(みやこ町)、ヨムギ古墳(須恵町)、観音山古墳群平石V-3号墳(那珂川市)、山ノ神4号墳(久留米市)、柿原2号墳(朝倉市)、上ノ原26号、54号、55-A号、59号、80号横穴墓(中津市)、四日市遺跡10次3号横穴墓、四日市遺跡10次4号横穴墓(玖珠町)

第3表 島根県・鳥取県内出土の有窓鍔集成

遺跡名	所在地	内容	鍔種	象嵌・柄頭	時期
小汐手B-4号横穴墓	安来市黒井田町	横穴墓	八窓鍔	銀象嵌	TK43~217
宮内遺跡II区1号横穴墓	安来市宮内町	横穴墓	八窓鍔	銀象嵌	TK43
中山横穴墓	安来市伯太町	横穴墓	六窓鍔	金銅装主頭大刀	TK209
島田池遺跡4区6号横穴墓	松江市東出雲町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
松廻1号横穴墓	松江市八雲町大石	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
八幡宮下2号横穴墓	松江市八幡町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
菅沢谷A-1号横穴墓	松江市平成町	横穴墓	八窓鍔	—	TK217
菅沢谷C-1号横穴墓	松江市平成町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
伊賀見1号墳	松江市宍道町白石	方・12m	六窓鍔	—	TK209
御射山2号横穴墓	出雲市斐川町莊原	横穴墓	六窓鍔	—	大谷6a
上塙治塗山古墳	出雲市上塙治町	円・45m	八窓鍔	金銀装圓頭大刀	TK43
上塙治横穴墓群第8支群3号横穴墓	出雲市上塙治町	横穴墓	八窓鍔	銀象嵌	TK209
上塙治横穴墓群第8支群2号横穴墓	出雲市上塙治町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
上塙治横穴墓群第22支群17号横穴墓	出雲市上塙治町	横穴墓	六窓鍔	—	大谷6a
上塙治横穴墓群第40支群1号横穴墓	出雲市上塙治町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
西谷横穴墓群第2支群1号横穴墓	出雲市大津町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
刈山4号墳	出雲市馬木町	円・13m	六窓鍔	—	TK209
放レ山古墳	出雲市吉志町	円・13m	八窓鍔	銀象嵌	TK209
放レ山古墳	出雲市吉志町	円・13m	六窓鍔	金銅装主頭大刀	TK209
神門横穴墓群第10支群H-4号横穴墓	出雲市神西沖町	横穴墓	八窓鍔	銀象嵌	大谷6a
神門横穴墓群第10支群J-2号横穴墓	出雲市神西沖町	横穴墓	八窓鍔	—	TK217
小浜山D-2横穴墓	出雲市神西沖町	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
寺谷尻古墳	雲南市大東町久野	円・10m	六窓鍔	—	TK209
山根横穴墓	雲南市掛合町松笠	横穴墓	七窓鍔	—	TK209
立花横穴墓	大田市大田町	横穴墓	六窓鍔	金銅装頭椎大刀	—
諸友大師山I群1号横穴墓	大田市仁手町刺鹿	横穴墓	六窓鍔	—	TK209
明神古墳	大田市仁摩町仁万	円・20m	六窓鍔	—	TK209
唯山古墳	海士町福井	円	八窓鍔	銀象嵌	TK43-209
唯山古墳	海士町福井	円	六窓鍔	—	TK43-209
大座西遺跡2号墳	隱岐の島町下西	墳形不明	八窓鍔	銀象嵌	TK43-209
大座西遺跡2号墳	隱岐の島町下西	墳形不明	八窓鍔?	—	TK43-209
平西2号墳	隱岐の島町平	円	六窓鍔?	金銅装	TK209-217
吉定1号墳	伯耆町吉定	円・18m	六窓鍔	—	TK43
宗像1号墳	米子市宗像	方円・37m	七窓鍔	—	TK43-217
宗像1号墳	米子市宗像	方円・37m	八窓鍔?	—	TK43-217
東宗像1号墳	米子市宗像	円・12m	六窓鍔	—	TK43-209
東宗像1号墳	米子市宗像	円・16m	六窓鍔	金銅装頭椎大刀	TK43-209
大転場古墳(壺甕山29号墳)	米子淀江町西原	円・40m	八十十五窓鍔	金銅装頭椎大刀	TK209
石州府1号墳	米子市石州府寺處	横穴墓	八窓鍔	—	大谷6a
坂本10号横穴墓	日野町霞字妙見谷	横穴墓	八窓鍔	—	TK43-209
服部36号墳	倉吉市服部	円・16m	八窓鍔	—	飛鳥II
楓下6号墳(代代1号墳)	琴浦町楓下	円・12m	八窓鍔	—	TK43-209
谷奥1号墳	鳥取市氣高町勝見字福田	墳形不明	八窓鍔	銀象嵌	TK209-217
谷奥1号墳	鳥取市氣高町勝見字福田	墳形不明	七窓鍔	—	TK209
福本70号墳	八頭町福本	八角・15m	八窓鍔	—	TK209-飛鳥II

参考文献

- 1995 有井宏子「耳環の出土状況」『摂河泉文化資料』第44号 摂河泉文庫
- 1977 斑鳩町教育委員会『斑鳩仏塚古墳』
- 2017 池淵俊一『古墳時代史にみる古代出雲成立の起源』松江市ふるさと文庫18 松江市
- 1980 泉森皎ほか『天理市石上・豊田古墳群I』奈良県教育委員会
- 1981 泉森皎ほか『天理市石上・豊田古墳群II』奈良県教育委員会
- 2019 井谷朋子「北部九州とのつながりを示す玉」『古墳文化の珠玉-玉は語る出雲の煌めき-』島根県立古代出雲歴史博物館
- 2020 井谷朋子・岩橋孝典・吉松大志・西尾克己「隠岐郡・知夫村高津久横穴墓群について(論考編)」『古代文化研究』第28号 島根県古代文化センター
- 2019 岩本真実「石見地域における須恵器の編年と地域性-「石見型須恵器」再考-」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター
- 2016 上山晶子「出雲・石見地域における古墳時代後期の錫・鉛製環状製品に関する一考察」『島根考古学会誌』第33集 島根考古学会
- 2019 内田律雄・曳野律夫・松本岩雄「出雲市上塙治町半分古墳測量報告」『島根考古学会誌』第36集 島根考古学会
- 1999 大谷晃二「上塙治塗山古墳をめぐる諸問題」『上塙治塗山古墳の研究』島根県古代文化センター
- 2019a 大谷晃二「出雲地方の横穴式石室・石棺・横穴墓の諸形態とその評価」『国家形成期の首長権と地域社会構造と』島根県古代文化センター
- 2019b 大谷晃二「石州府1号墳の金銅装頭椎大刀」『国家形成期の諸問題 白石太一郎先生傘寿記念論文集』山川出版社
- 2021 大谷晃二「金銀装大刀と豪族」『九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集第2集 大宰府史跡指定100年と研究の歩み』九州国立博物館

- 2000 小笠原好彦「同範・同形式軒瓦からみた尼寺廃寺の性格と造営氏族」『日本考古学』第10号 日本考古学協会
- 1990 小沢洋『三条塚古墳』24頁 富津市教育委員会・(財)君津郡市文化財センター
- 2003 香芝市教育委員会『尼寺廃寺 I』
- 1977 河上邦彦『平群 三里古墳』奈良県立橿原考古学研究所
- 1987 河上邦彦『史跡 牧野古墳』広陵町教育委員会
- 2004 河上邦彦「ハミ塚古墳遺物などの意義」『大和の終末期古墳』橿原考古学研究所附属博物館
- 2020 河野正訓「山口県萩市見島ジーコンボ古墳群の被葬者像」『柳本照男さん古稀記念論集』柳本照男さん古稀記念論集刊行会
- 2005 川原秀夫「上野における氏族の分布とその動向」『装飾付大刀と後期古墳』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター
- 1998 桐原 健「科野にみる金環出土古墳のあり方」『國學院大學古学資料館紀要』第14輯 國學院大學考古学資料館
- 1988 国島浩正「第五章律令国家の形成と発展 第三節律令体制と讃岐」『香川県史第一巻通史編』香川県
- 1973 倉吉市『倉吉市史』
- 1987 小池 寛「中空耳環について」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 1966 近藤義郎「農民と耳飾り」『考古学研究』第13巻第1号 考古学研究会
- 1984 白石成二「第一章 伊予の国造/国造と部民」『愛媛県史 原始・古代II』愛媛県
- 1976 菅谷文則「古墳時代の耳環についてーとくに金環を中心としてー」『古代国家の形成と展開』大阪歴史学会編 吉川弘文館
- 2008 下向井龍彦「第十編 長門・周防地域と東アジア 第四集 対外緊張と周防・長門地方」『山口県史』通史編 原始・古代 山口県
- 2006 関 和彦『出雲国風土記註論』明石書店
- 2002 高橋正樹「笊内古墳群出土銅芯銀張り鍍金耳環復原製作実験」『文化財と技術』第2号 文化財と技術の研究会
- 2021 高田寛太『アクセサリーの考古学 倭と古代朝鮮の交渉史』吉川弘文館
- 2021 竹井良・藤澤明「山梨県指定文化財稻荷塚古墳出土耳環の製作技法と材料产地推定」『帝京大学文化財研究所研究報告』第20集
- 2003 田中昌樹「横穴式石室に副葬されるミニチュア炊飯具-奈良県を中心として」『上5号墳』奈良県立橿原考古学研究所
- 1997 辻村純代「耳環考」『古文化談叢』第39集 九州古文化研究会
- 2003 土橋理子『ハミ塚古墳 奈良県文化財調査報告書第102集』奈良県立橿原考古学研究所
- 2021 土屋隆史「倭における盛矢具の生産体制とその変化」『日本考古学』第52号 一般社団法人日本考古学協会
- 2004 鄭聖喜「王たちの装い」『黄金の国・新羅-王陵の至宝-』奈良国立博物館・韓国国立慶州博物館
- 2001 中浜久喜「播磨における横穴式石室の構造と変遷」『横穴式石室からみた播磨』第2回播磨考古学研究集会実行委員会
- 2020 中村晋也・竹森杏奈「子浦小谷屋横穴古墳群・聖川寺山横穴古墳群(宝達志水町)出土耳環の自然科学的研究」『金沢学院大学紀要』第18号 金沢学院大学
- 2009 檀本誠一「播磨における古代氏族の検討」『兵庫発信の考古学』間壁葭子先生喜寿記念論文集刊行会
- 1958 奈良国立文化財研究所『飛鳥寺発掘調査報告書』
- 2019 西尾克己・岩橋孝典・井谷朋子「隱岐郡知夫村・高津久横穴墓群について(報告篇)」『古代文化研究』第27集 島根県古代文化センター
- 2003 西村匡広「横穴式石室の壁体構造と玄室平面形の検討ー上5号墳の横穴式石室の構造復原を通してー」『上5号墳』奈良県立橿原考古学研究所
- 2000 西山めぐみ「古墳時代耳環考-福岡平野出土耳環の材質・製作技法についてー」『古文化談叢』第44集 九州古文化研究会
- 2002 西山めぐみ「金工技術からみた日韓交渉」『人類史研究』第13号 人類史研究会
- 2015 丹羽野裕・平石充ほか「第四章 古墳時代の松江 第四節 王権の確立と出雲世界の成立 九 古墳時代後期の出雲」『松江市史 通史編1 自然環境・原始・古代』松江市
- 1999 野口成美「VIII考察 8東山古墳群出土耳環の特徴」『東山古墳群』兵庫県多可郡中町教育委員会・京都府立大学考古学研究室
- 1997 春成秀爾「第五章 農民も耳飾り」『歴史発掘④古代の装い』講談社
- 2019 比佐陽一郎「藤ノ木古墳出土耳環の復原製作について」『文化財と技術』第9号 工芸文化研究所
- 2013 菊田哲郎「7世紀における地域社会の変容-古墳研究と集落研究の接続をめざしてー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第179集 国立歴史民俗博物館

- 2019 菱田哲郎「地域の開発と後期古墳—プレ律令国家期の地域社会の形成—」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター
- 2004 平石充「出雲西部地域の権力構造と物部氏」『古代文化研究』第12号 島根県古代文化センター
- 2005 平石充「文献からみた装飾付大刀の機能とその分布」『装飾付大刀と後期古墳』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター
- 2013 平田政彦「塔心礎上面出土品について」『史跡中宮寺跡発掘調査報告書』斑鳩町教育委員会
- 2001 松尾充晶「第6章 装飾付大刀の評価と諸問題」『かわらけ谷横穴墓の研究』島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター
- 2005 松尾充晶「出雲地域の装飾付大刀と後期古墳」『装飾付大刀と後期古墳』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター
- 1991 松本百合子「耳環」『古墳時代の研究8 古墳II副葬品』雄山閣
- 1991 村上隆「高川古墳群出土の耳環の構造と材質について」『高川古墳群』兵庫県教育委員会
- 1994 村上隆「島根県安来市大原1号横穴出土の耳環の材質と構造」『臼コクリ遺跡・大原遺跡』島根県教育委員会
- 1995 村上隆「古代金工における金属接合技術—銀鑑による「鑑接」技法を中心に—」『文化財論叢II』奈良国立文化財研究所創立40周年記念論文集刊行会編
- 1997 村上隆「古墳時代の金工品に用いられた金属材料と製作技術」『日本の美術』No.371 至文堂
- 1998 村上隆「広島県見尾山第1号古墳から出土した中空耳環の材質と構造」『灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』広島県埋蔵文化財調査センター
- 2001 村上隆「東山古墳群から出土した耳環の分類と分析」『東山古墳群II』中町教育委員会
- 2002 村上隆「古墳時代の金・銀耳環の材質と製作技術をめぐる考察」『奈良文化財研究所紀要2002』独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 1997 渡辺智恵美「耳環小考—製作技法、材質からみた分類—」『創立三十周年記念誌』元興寺文化財研究所
- 2002 渡辺智恵美・菅井裕子・梅木謙一・平尾良光・榎本淳子「松山平野における耳環の様相」『日本文化財科学会第19回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会
- 2003 渡辺智恵美「太市中古墳群出土耳環の自然科学的調査」『太市中古墳群』兵庫県教育委員会
- 2012a 渡辺智恵美「一須賀古墳群出土耳環の自然科学的調査」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』16 大阪府立近つ飛鳥博物館
- 2012b 渡辺智恵美「自然科学的手法を用いた古墳時代の金属器製作技術の調査と工具の復元」『科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書』
- 2018 渡辺智恵美「X線CTスキャンと三次元データを利用した耳環の調査—セット関係特定のための新手法の試み—」『史学論叢』第48号 別府大学史学研究会
- 2003 山下隆次「造営一族」『尼寺廃寺I』香芝市教育委員会
- 2018 横田真吾「熊本県熊本市宮穴横穴群出土の遺物について」『書陵部紀要』第69号 宮内庁書陵部
- 2012 横山成己「見島ジーコンボ古墳群「俘囚墓説」小考」『やまぐち学の構築』第8巻 山口大学研究推進体「やまぐち学」構築プロジェクト
- 2017 横山成己『見島ジーコンボ古墳群 第123号墳・第152号墳（再）・西部域出土資料報告』山口大学埋蔵文化財資料館
- 2019 吉松大志ほか「隱岐郡・知夫村高津久横穴墓群について（論考編） 文字資料からみた古代の知夫里島」『古代文化研究』第28号 島根県古代文化センター
- 2019 吉松優希「島根県域出土の象嵌装大刀の諸様相」『島根考古学会誌』第36集 島根考古学会
- 2020 吉松優希「出雲地域における鉄製板鍔の展開」『考古学研究会岡山12月例会資料』考古学研究会
- 2021 吉松優希「H-4号横穴墓出土象嵌鍔について」『神門横穴墓群 第10支群』出雲市教育委員会



第9図 島根県内出土の中空耳環の諸例（写真＋実測図）

第4表 中空耳環出土遺跡一覧（2022年3月時点未成）

所在地	遺跡名	点数	番号、寸法など	時期	古墳の特徴	文献
宮城県多賀城市	東北歴史博物館杉山コレクション	1	10E23148(径3.5×3.5cm)	7世紀?	出土地不明。	宮城県①
福島県いわき市平沼ノ内	中田1号横穴墓	1	41図-100(径3.3cm)	6世紀後葉	新興首長墓。装飾横穴墓。	福島県①
茨城県つくば市北条	中台遺跡21号墳	1	340図-33(径3.2×3.0cm)	7世紀初頭	直径15.0mの円墳。全長4.7mの無袖式横穴式石室。	茨城県①
茨城県かすみがうら市安食	風返稻荷山古墳	2	37図-48.49(48は径3.5×3.4cm、49は径3.75×3.6cm。共に内部に丸が入る)	7世紀初頭～前葉	全長78mの前方後円墳。全長9.12mの横穴式石室。	茨城県②
茨城県東海村石神外宿二本松	二本松古墳	2	24図-7.10(7は径3.5×3.2cm、重さ8.5g。10は径3.4×3.2cm、重さ8.5g)	6世紀後葉～末	直径29mの円墳。全長約9mの無袖式横穴式石室。馬具・	茨城県③
徳川頼貞氏寄贈（昭和2年）	茨城県内	1	10476(径4.5×4.2cm)	不明		茨城県④
栃木県高根沢町亀梨	上の台古墳	1	10図-1(径3.2cm)	7世紀前葉	直径33mの円墳。片袖式全長5.6mの横穴式石室。	栃木県①
栃木県那珂川町久那瀬	川崎古墳	1	7図-35(径2.4cm、重さ5.55g)	7世紀初頭	全長49mの前方後円墳。全長9.6m以上の横穴式石室。	栃木県②
栃木県市貝町刈生田	刈生田古墳	1	第11図-1(径1.7×1.6cm)	7世紀初頭	直径29mの円墳。全長4.4mの横穴式石室。双龍環頭大刀。	栃木県③
栃木県足利市西宮町	織姫神社境内古墳			6世紀末～7世紀前葉	円墳?。T字形の横穴式石室。1936年神社移転の際に調査	栃木県④
群馬県伊勢崎市市磯町	赤堀村248号墳	2	金銅製中空耳環	7世紀前葉	直径18.6mの円墳。横穴式石室。	群馬県①
群馬県前橋市亀泉町	亀泉坂上遺跡1号墳	2	122図-6.7(6は径2.5×2.3cm、7は径2.3×2.05cm)	7世紀前葉	直径20mの円墳。全長6.2mの両袖式横穴式石室。	群馬県②
群馬県前橋市笊井町	東博所蔵（笊井町出土）	1	径2.2×2.4cm	6世紀末～7世紀初頭	昭和2年発見。	群馬県③
群馬県高崎市綿貫町	綿貫觀音山古墳	2	21図-10.11(中空純銀製10は径3.57×3.23cm。11は径3.52×3.19cm)	6世紀後葉	前方後円墳、二重周濠、墳長97m。全長12.65mの両袖式横穴式石室。上毛野氏か。	群馬県④
群馬県高崎市八幡町	八幡觀音塚古墳	2		6世紀末～7世紀初頭	墳長97mの前方後円墳、全長15.3mの両袖式横穴式石室。上毛野氏か。	群馬県⑤
群馬県高崎市下滝町	前山古墳	1	148図-1(径2cm、破損)	6世紀末～7世紀初頭	全長47m以上の前方後円墳。全長5.57m以上の両袖式横穴式石室。	群馬県⑥
群馬県高崎市本郷町	奥原古墳群9号墳	2	26図-0917.0918(0917は径3.0×2.25cm、重さ7.36g。0918は径2.95×2.87cm、重さ5.36g)	7世紀初頭	直径9.5mの円墳。全長4.76mの両袖式横穴式石室。	群馬県⑦
群馬県高崎市本郷町	奥原古墳群15号墳	1	49図-1569(径2.98×2.9cm、重さ4.06g)	7世紀初頭	直径10mの円墳。全長5.4mの両袖式横穴式石室。圭頭大刀。	群馬県⑦
群馬県高崎市江木町	東博所蔵（江木町稻荷廻783出土）	1	23202(径3.3×3.1cm)	6世紀末～7世紀初頭		群馬県③
群馬県高崎市貝沢町	東博所蔵（五靈神社古墳出土）	2	20433(径4.0×3.7cm)	6世紀末	全長50mの前方後円墳。昭和3年に横穴式石室が開口。	群馬県③
群馬県高崎市上豊岡町	東博所蔵（上豊岡台地藏堂出土）	2	14156.14157(径2.6×2.3cm、径2.6×2.5cm)	6世紀末	明治39年発見。	群馬県③
群馬県高崎市倉賀野町	東博所蔵（倉賀野町大応寺甲出土）	1	21735(径2.8×2cm)	6世紀末	昭和6年発見。	群馬県③
群馬県高崎市劍崎町	東博所蔵（劍崎町大塚出土）	1	5420(1/3程度残存)	6世紀末	明治41年発見。径22mの円墳	群馬県③
群馬県高崎市上佐野	東博所蔵（佐野村出土）	1	4825(1/3程度残存)	6世紀末	明治42年以前に発見	群馬県③
群馬県藤岡市白石	東博所蔵（白石二子山古墳）	2	353.386(386は径3.2×3.0cm)	6世紀末～7世紀初頭	墳長66mの前方後円墳。玄室長8.8m以上の両袖式横穴式石室。明治13年以前に開口	群馬県③
群馬県榛東村広馬場	金井54号墳	1	47図-3(径2.85×2.7cm、重さ7.3g)	7世紀初頭～7世紀中葉	直径20mの円墳。全長7mの両袖式横穴式石室	群馬県⑧
埼玉県熊谷市永井太田	飯塚10号墳	3	343図-239(径1.7×1.6cm、1.9g)、243(径3.3×3.1cm、5.9g)、244(径3.0×2.9cm、4.4g)	6世紀末～7世紀初頭	直径14.7mの円墳。玄室は全長2.54mが残存	埼玉県①
埼玉県鴻巣市滝馬室	水川神社境内（愛宕塚古墳）	1	6142(径3.4×3.0cm)	6世紀末～7世紀初頭	墳形・規模不明。	埼玉県②
埼玉県行田市小見	小見真觀寺古墳	2	350.351(径3.4×3.2cm、径3.4×3.3cm)	6世紀末～7世紀初頭	墳長102mの前方後円墳。後円部とくびれ部に横穴式石室。金環はくびれ部の石室出土。武藏国造か。	埼玉県②
出土地不明（埼玉県）	旧長瀬総合博物館所蔵	3	3.4、4.49(3・4は外径3.1×3.1cm、4.9は外径2.2×2.2cm)	不明	平成25年に埼玉県に寄贈され、考古資料はさきたま史跡の博物館に収蔵。埼玉県外出土の所蔵品も多い	埼玉県③
埼玉県本庄市児玉町秋山	秋山庚申塚古墳	1	外径2.95cm	TK43～TK209	直径34mの円墳で二重周溝をもつ。周溝の外径は74m。全長7.72mの両袖式横穴式石室。馬具3セツ	埼玉県④⑤
埼玉県美里町白石	白石3号墳	3	中空金環1、中空銀環2	6世紀後葉～7世紀初頭	全長42.5mの前方後円墳。横穴式石室	埼玉県⑥
出土地不明（東京都八王子市）	井上郷太朗コレクション	1	25図-169-1(径3.4×3.2cm、重さ16.15g)	不明		東京都①
千葉県富津市下飯野	三条塚古墳	1	7図-1(径3.35×3.1cm、重さ10.3g)	6世紀末	墳長122mの前方後円墳、二重周溝。全長8.5m以上の横穴式石室。須恵国造か。	千葉県①
千葉県香取市小見川	城山1号墳	4	銀製(外径3.75×3.4cm)	6世紀後葉	前方後円墳、墳長68m。全長6.5mの片袖式横穴式石室。下海上国造か。	千葉県②⑤
千葉県木更津市長須賀	上総金鈴塚古墳	4	48図-1.2.3.4(1.2は径3.5cm、3.4は径3.5cm)1.2は玄室A区石棺内、3.4は羨道E区	6世紀末	墳長100mの前方後円墳で二重周溝。全長9.6mの無袖式横穴式石室。馬来田国造か。	千葉県③
千葉県船橋市印内	印内台第1号横穴墓		径2.0cm			千葉県④
千葉県印旛郡栄木塚小台	小台1号墳	1	径3.0cm	7世紀初頭	全長37mの前方後円墳。埋葬施設（箱形石棺）が埴丘裾部にある『常縦型古墳』	千葉県⑥
千葉県千葉市緑区	中原3号墳	2		TK43～TK209	全長33mの前方後円墳。木棺直葬	千葉県⑦
石川県輪島市稻舟町	稻舟横穴古墳群8号墳	2		6世紀末～7世紀前葉		石川県①
石川県加賀市勅使町甲	法皇山65号横穴墓	2	112図-1(径3.2cm)、112-2(径3.4cm)	6世紀末	奥行き3.5m。	石川県②
福井県おおい町山田	大飯神社4号墳	1	108図-1(径3.25cm、重さ10.0g)	7世紀前葉	群集墳。径11×8mの楕円墳。全長7.4mの無袖式横穴式石室。	福井県①
山梨県笛吹市石和町松本	大藏経寺山15号墳	1	径3.05×2.95cm	6世紀末～7世紀初頭	直径12mの円墳。全長6.2mの無袖式横穴式石室。	山梨県①
山梨県甲府市中道町下向山町	稻荷塚1号墳	2	008.009(008は径3.0×2.8mm、重さ5.9g)	6世紀後葉～7世紀中葉	直径20mの円墳。全長8mの横穴式石室。	山梨県②③

長野県長野市若穂保科	長原5号墳	1	記述のみ、推定径2.0cm	6世紀末～7世紀前葉	径12×7mほどの積石塚。全長4.1mの横穴式石室。	長野県①
長野県長野市松代町	大室25号墳	1	51図-1 (径3.13×2.95cm、重さ6.7g)	6世紀後葉～7世紀前葉	群集墳。直径12mの積石塚円墳。全長6.05mの無袖式横穴式石室。	長野県②
長野県長野市松代町	大室436号墳		径2.8×2.8cm	7世紀	無袖式横穴式石室。	長野県③
長野県長野市上松	湯谷古墳群					長野県④
長野県佐久市内山	長峯7号墳			7世紀前葉	両袖式横穴式石室。	長野県⑤
長野県佐久市臼田	蛇塚3号墳	2	35図-8 (径3.1cm、2/3は欠損)、35図-9 (径3.1cm、3/4は欠損)	7世紀中葉	直径14.3mの積石円墳。全長6mの横穴式石室。	長野県⑥
長野県飯田市松尾上溝	上溝11号墳	2	図19-1.2 (1は径3.1×2.9cm、重さ7g。2は径3.0×2.9cm、重さ7g)	7世紀初頭～中葉	直径14mの円墳。全長7.1mの両袖式横穴式石室。中空耳環と明記されないが重量で判断。	長野県⑦
岐阜県池田町片山	南高野古墳	2	37図-117.118 (117は径3.5×3.0cm、118は径3.4×3.0cm)	6世紀後葉～7世紀初頭	直径22mの円墳で周溝を持つ中規模首長墳。全長10.5mの片袖式横穴式石室。	岐阜県①
岐阜県関市広見	小洞古墳群ST1土坑墓	1	43図-30(径3.3×3.0cm、重さ8.5g)	7世紀前葉	9号墳の西に所在。長軸3.04×短軸0.76m。	岐阜県②
静岡県森町円田	天王ヶ谷52号横穴墓	2	765、766(共に径3.2×3.1cm)	7世紀前葉	全長4.2m。	静岡県①
静岡県藤枝市原	原B-13号墳					静岡県②
静岡県藤枝市岡部町岡部	板澤6号墳					静岡県②
静岡県静岡市駿河区大谷	宮川5号墳	1	第21図-105 (外径2.35×2.6cm)	7世紀初頭～中葉	墳形・規模は不明。全長7mの疑似横穴式石室内の1号箱形石棺から出土。馬具・銀象眼大刀あり	静岡県③
静岡県浜松市浜北区尾野	大屋敷A56号墳	1	第314図-1701 (径2.95×2.7cm) 報告書では木芯?とする	6世紀後葉～7世紀	直径17.2～14mの横円墳。全長11.2mの横穴式石室。群集墳	静岡県④
静岡県浜松市有玉西町	地蔵平B 3号墳	1	第83図-5 (径2.0cm、半損、報告書では銅芯耳環とする)	7世紀中葉	群集墳。直径10mの円墳。全長4.2mの両袖式横穴式石室	静岡県⑤
静岡県浜松市有玉西町	地蔵平B10号墳	1	第83図-5 (径3.2cm、外周半損、報告書では銅芯耳環とする)	6世紀末	群集墳。直径10.5×9.0mの横円墳。全長4.7mの両袖式横穴式石室	静岡県⑤
愛知県豊橋市王ヶ崎町王郷	磯辺塚古墳	2	36図-1.2 (1は外径2.82×2.65cm、重さ10.3kg。2は外径2.8×2.65cm、重さ10.9kg)	6世紀後葉	円墳、直径20～25m。全長10.2m程度の横穴式石室。	愛知県①
愛知県岡崎市岩津町	天神山2号墳	1	径2.0cm	6世紀後葉～7世紀初頭	直径12mの円墳。全長7.6mの両袖式横穴式石室。	愛知県②
愛知県岡崎市岩津町	岩津2号墳	1	25図-1(外径3.5×3.3cm)	6世紀後葉～7世紀	直径14m程度の円墳。全長7.35mの両袖式横穴式石室。	愛知県③
愛知県岡崎市岩津町	岩津3号墳	1	30図-2(外径3.1×2.9cm)	6世紀後葉～末	墳丘規模不明。横穴式石室は4.1mのみ残存。	愛知県③
	木村定三コレクション(愛知県立美術館)	1	M2484(外径3.1cm)			愛知県④
三重県伊賀市富岡	富岡前山古墳	3	第IV-8図-55.56.57(55は径3.1cm、56は径3.3cm、57は径2.4cm)	6世紀末	王権との関係が強い中堅首長層。直径20mほどの円墳。全長8.6mの片袖式横穴式石室。	三重県①
三重県四日市西坂部町	御池古墳群	2	内部に細粒の砂	TK209		三重県②
三重県明和町坂本	坂本2号墳	2	16図-29.30(径2.0cm)	7世紀前葉	一辺16mの方墳。木棺直葬。	三重県③
三重県津市安濃町戸島	山ノ下B 21号墳	4	28～31(28は径2.48cm、重さ8.5g。29は径2.46cm、重さ7.2g。30は径2.46cm、重さ6.6g。31は径2.48cm、重さ7.0g)	7世紀中葉	群集墳。墳形規模は不明。全長6.6mの無袖式横穴式石室。	三重県④
滋賀県栗東市下戸山	和田8号墳	2	第67図-7.10 (7は外径3.2×3.05cm、重さ7.57g。10は外径3.3×3.1cm、重さ8.31g)	6世紀末(TK209)～7世紀前葉	直径11mの円墳、全長5.7mの両袖式横穴式石室。馬具あり。渡米系氏族	滋賀県①
滋賀県大津市滋賀里	大通寺31号墳	1	非掲載(遺存状態悪く非掲載)	7世紀前葉	墳丘は破壊されている。石室も破壊されているが全長2.59m以上の無袖式横穴式石室。渡米系氏族か	滋賀県②
京都府宇治市兔道西	隼上り2号墳	2	21図-67.68(共に径3.85×3.45cm)	6世紀後葉～7世紀初頭	直径30mの円墳。全長9.15mの両袖式横穴式石室。	京都府①
京都府城陽市寺田正道	正道遺跡15号住居跡	1	42図-4(径1.8cm)	6世紀末～7世紀初頭	住居跡。	京都府②
京都府八幡市美濃山	荒坂横穴墓群27号墓	2	第18図-94.95(94は径2.95×2.74cm、重さ3.8g。95は径2.85×2.69cm、重さ4.2g)	7世紀前葉	全長9m以上の横穴墓。	京都府③
京都府京田辺市松井	松井横穴墓群15号横穴墓	2	第28図-10.11(10は径2.85×2.55cm、重さ2.6gで半損／11は径3.1×2.8cm)	7世紀後葉	全長6.6mの横穴墓。	京都府④
京都府京田辺市松井	松井横穴墓群28号横穴墓	1	第68図-71(径2.8×2.5cm、重さ2.4gで半損)	TK209	玄室の奥側2.08mのみ残存する横穴墓。	京都府④
京都府井手町井手大塚	北大塚2号墳	1	第30図-71(径2.8cm、重さ3.9g)	TK209-飛鳥I	直径16mの円墳。全長4.5m以上の右片袖式横穴式石室。	京都府⑤
京都府井手町井手大塚	北大塚3号墳	2	第34図-93.94(93は径3.2×3.1cm、重さ5.9g。94は径2.8×3.0cm、重さ4.6g)	飛鳥I	墳形・規模不明。横穴式石室。	京都府⑤
京都府南丹市園部町小山東町	天神山3号墳	1	28図-89(径3.1×2.7cm)	7世紀初頭	直径12mの円墳。全長8.0mの無袖式横穴式石室。群集墳。	京都府⑥
京都府綾部市館町	高谷10号墳	2	径2.8×2.2cm	TK209	直径15～10mの円墳。無袖式横穴式石室。	京都府⑦
京都府福知山市宇宮	城ノ尾古墳	2	37図-18(径3.3×3.0cm)、もう一点は破片	6世紀末～7世紀前葉	直径12～10.5mの円墳。全長7.35mの無袖式横穴式石室。	京都府⑧
京都府京丹後市周枳	里ヶ谷4号横穴墓	1	第70図-29(径3.3×3.1cm、重さ8.10g)	7世紀前葉(TK217)	玄室長3.0mの横穴墓。6基を調査	京都府⑨
大阪府四條畷市清瀧	大上5号墳	1				大阪府①
大阪府柏原市田辺	田辺17号墳	2	30図-88.30図-39 ともに直径1.4cm、重さ2g、金製	7世紀中頃	直径4.5mの円墳。組合式木棺直葬。田辺史氏の墓域。	大阪府②
大阪府柏原市雁多尾畠	平尾山古墳群雁多尾畠11支群6号墳	1	図20(径3.1×2.9cm、重さ3.5g)	6世紀末～7世紀初頭	群集墳。直径11mの円墳。全長7.4mの片袖式横穴式石室。	大阪府③
大阪府柏原市太平寺	太平寺古墳群3-2号墳	2	図版25-80.81(径3.1cm。80は2/3破損、81は半損)	6世紀末～7世紀初頭	群集墳。直径12mの円墳。全長8.5mの両袖式横穴式石室。	大阪府⑩
大阪府河南町加納	加納2号墳	1	27-27(径3.3cm)	6世紀末～7世紀前葉	直径16mの円墳。全長8.8mの左片袖式横穴式石室。群集墳。	大阪府④
大阪府河南町寛弘寺	寛弘寺K-11号墳	1	径3.32×3.13cm、重さ6.2g。			大阪府⑤
大阪府河南町大字中	石塚3号墳	2	33図-84.85 84は外径2.6～2.9cm、85は外径2.55～2.8cm	6世紀末	群集墳。直径12m程度の円墳。全長6.9mの両袖式横穴式石室。	大阪府⑥
大阪府高槻市塙脇	塙穴4b号墳	2	第52図-35.36(35は径3.0×2.9cm、重さ4g。36は破損しているが35と同大)	6世紀末～7世紀前葉	群集墳。東西26m×南北17mの増築横円墳。全長7m以上の両袖式横穴式石室。	大阪府⑦
大阪府大阪市天王寺区四天王寺	四天王寺塔心礎	2	第10図(ともに径2.3cm)中空金管耳環	7世紀第2四半期	古代寺院(上宮王家)	大阪府⑧
大阪府泉市鶴山台	道田池2号墳	1	図8-1(径3.2×3.2cm)	6世紀末～7世紀初頭	直径14mの円墳。横穴式木室	大阪府⑨

兵庫県宝塚市雲雀丘	雲雀丘B1号墳	1	径3.35×2.95cm	TK209	墳形・規模は不明。両袖式横穴式石室。	兵庫県①
兵庫県西宮市苦楽園	老松1号墳	2	径2.7×2.7cm、重さ9.5g／径2.95×2.95cm、13.7g	TK217	直径13~15mの円墳。右片袖式横穴式石室。	兵庫県②
兵庫県芦屋市岩園町	八十塚古墳群岩ヶ平支群第60号墳	1	9図-14(径3.8×3.45cm、破損しているが現重量6.7g)	6世紀末~7世紀初頭	直径10mの円墳。全長5.8mの無袖式横穴式石室。隣の61号墳から双龍環頭大刀出土。	兵庫県③
兵庫県三田市藍本	高川1号墳	2	33図-F25.F26 復元外径3.4~3.1cm	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径11mの円墳。全長7.4mの片袖式横穴式石室。	兵庫県④
兵庫県多可町中区牧野	入角69号墳	1			直径18.5~14.5mの円墳。両袖式横穴式石室。	兵庫県⑤
兵庫県多可町中区牧野	入角100号墳	1		飛鳥II	直径12~9mの円墳。無袖式横穴式石室。	兵庫県⑤
兵庫県多可町中区東山	東山15号墳	2	108図-1(径2.6×2.3cm)、2(径2.6×2.4cm)	7世紀中葉	群集墳。直径25mの円墳。全長12.4mの両袖式横穴式石室。	兵庫県⑥
兵庫県多可町中区東山	東山10号墳	3	49図-1(径3.5×3.2cm)、2(径3.1×2.8cm)、排土中から非揭露一点あり	7世紀前葉	群集墳。直径20mの円墳。全長12mの両袖式横穴式石室円墳。	兵庫県⑦
兵庫県多可町中区東山	東山12号墳	4	106図-2(径2.8cm)、3(径2.8cm)、4(径3.1×2.8cm)、5(径3.1×2.8cm)	7世紀初頭	群集墳。直径22mの円墳。全長11.1mの無袖式横穴式石室円墳。	兵庫県⑦
兵庫県姫路市西脇	西脇丸山2号墳	1	M14(径3.2×3.0cm、重さ8.0g)	6世紀末~7世紀初頭	直径20mの円墳。全長8.0mの片袖式横穴式石室。	兵庫県⑧
兵庫県姫路市辻井	山崎山1号墳	1	図250-15(径3.7×3.5cm)	6世紀末	群集墳。墳形規模は不明。全長6.5m以上の片袖式横穴式石室。馬具、雁木玉、銅鏡あり。	兵庫県⑨
兵庫県姫路市西脇	西脇A支群26号墳	1	図版238-26-11(外周は破損)	7世紀前葉 TK217古	群集墳。長径6.5mの楕円墳。全長2.51mの無袖式横穴式石室。	
兵庫県姫路市西脇	西脇A支群46号墳	1	図版239-46-1(径2.9×2.7cm、重さ5.3g)	7世紀前葉 TK217古	群集墳。径6mの円墳。全長2.7mの無袖式横穴式石室	兵庫県⑮
兵庫県姫路市西脇	西脇B支群52号墳	2	図版239-52-3.4(3は径2.9×2.7cm、重さ9.9g、4は径2.9×2.7cm、重さ10.1g)	7世紀前葉 TK217古	群集墳。長径7mの楕円墳。全長3.28mの無袖式横穴式石室。	
兵庫県赤穂市有年橋原	野田祇園塚古墳	1	図31-13(径3.6×3.1cm)	6世紀末~7世紀初頭	横穴式石室。	兵庫県⑨
兵庫県豊岡市城崎町上山	二見谷4号墳	1	第30図-67(径3.2×3.02cm、木芯金銅張り)	7世紀初頭 (TK209) ~前葉	直径18mの円墳。全長9.7mの両袖式横穴式石室。銅鈴、金銅装残欠	兵庫県⑩
兵庫県淡路市富島	富島遺跡B地区石棺1	1	M1 外径3.1×2.9cm、重さ4.60g	7世紀前葉	箱形石棺。	兵庫県⑪
兵庫県神戸市垂水区多聞町	高塚山7号墳	1	fig.79 外径3.6×3.3cm	6世紀後葉~末	直径17~13mの楕円墳。全長10.7mの片袖式横穴式石室。	兵庫県⑫
兵庫県たつの市揖保川町黍田	黍田11号墳	1	26図-8(直径3.35×3.1cm。重量13.07g)	6世紀末	直径10mの円墳。全長7mの左片袖式横穴式石室	兵庫県⑬
奈良県奈良市山陵町	狐塚3号横穴墓	2	P20-7は径3.4×3.2cm、重さ6.6g、P20-8は径3.3×3.2cm、重さ10.5g	7世紀初頭	横穴墓群。	奈良県①
奈良県天理市岩屋町	ハミ塚古墳	1	30図-9(径2.7cm。土芯?)	TK43~TK209	一辺46.7×44.1mの方墳で周濠を持つ。全長約12mの横穴式石室。物部氏系の首長墓。	奈良県②
奈良県天理市渋谷町	龍王山E-12号	1	191図-1(径3.0×2.85cm)	飛鳥II~III	一辺6.5×8m以上の方墳。全長3m以上上の横穴式石室か。	奈良県③
奈良県天理市渋谷町	龍王山B-2号	1	45図-3 径3.2×3.05cm	TK43~TK209	直径11mの円墳。全長5.2mの片袖式横穴式石室。	奈良県③
奈良県天理市豊田町	タキハラ3号墳	2	79図-J1.J2(共に外径2.45×2.4cm)	7世紀前葉	直径16mの円墳。玄室長3.1mの両袖式横穴式石室。群集墳。	奈良県④
奈良県天理市石上町	石上北A5号墳	2	23図-J2.23-J4(J2は外径2.6×2.4cm、J4は外径3.0cmか)	6世紀末~7世紀初頭	直径10mの円墳。全長6.0m以上の両袖式横穴式石室。物部氏構成員。	奈良県④
奈良県天理市豊田町	ホリノヲ6号墳	2	41図-14、41図-16(ともに径3.3×3.0cm。14は中空、15は内部に砂が入る)	TK209~飛鳥I	直径10mの円墳。全長5.4m以上の右片袖式横穴式石室。物部氏構成員。	奈良県⑤
奈良県天理市森本町	寺山古墳群寺ノ北支群26号墳	2	第57図-66.67(66は3.35×3.1cm、67は3.35×3.2cm。共に半壊しており報告書では胸芯が脱落とされる)	6世紀末~7世紀前葉	直径14.5mの円墳。全長6mの両袖式横穴式石室。馬具あり。和邏氏系か。	奈良県⑯
奈良県葛城市寺口	寺口忍海H-22号墳	2	200図-1.2(ともに径2.0×1.9cm)	TK43~TK209	直径18~10mの長円墳。全長11.72mの両袖式横穴式石室(H地図最大)。渡来系技術者。	奈良県⑥
奈良県葛城市寺口	寺口忍海H-34号墳	2	285図-1.2(1は径3.45×3.05cm、2は径3.8×3.2cm)	TK43~飛鳥II (耳環は初葬?)	直径15mの円墳。全長8.1mの右片袖式横穴式石室。古墳群内では大型)。渡来系技術者。	奈良県⑥
奈良県葛城市竹内	三ッ塚11号墳	1	63図-105(径2.97×3.18cm、重さ4.2g)	TK209~飛鳥I	直径11mの円墳。全長10.2mの両袖式横穴式石室。古墳群の造墓基点。	奈良県⑦
奈良県葛城市竹内	三ッ塚古墳群小石室9	2	89図-1.2(1は外径2.62×2.75cm、重さ4.1g、2は径2.78×2.64cm)	飛鳥II	石室内法1.7m。	奈良県⑦
奈良県香芝市尼寺	尼寺廐寺塔心礎	3	J1(径1.89×1.9cm、重さ2.08g)、J10(径1.9×1.82cm、重さ2.23g)、J12(径1.48×1.41cm、重さ0.54g)	650~660年創建	紀氏が造営?。12点中の3点が中空耳環。	奈良県⑧
奈良県御所市朝妻	ドンド垣内6号墳	2	19図-1.2(1は外径3.0cm、2は外径3.0cm)	不明	墳形・規模不明。長さ2.4mの小石室。渡来系氏族の朝妻氏か。	奈良県⑨
奈良県宇陀市榛原下井足	丹切33号墳	1	96図-1(径20.9×1.98cm、1.8g)	7世紀前葉	墳丘ははっきりしないが10m以下。全長6.6mの両袖式横穴式石室。	奈良県⑩
奈良県宇陀市榛原下井足	丹切43号墳	1	123図(径3.4×3.28cm、重さ16.6g)	6世紀末~7世紀初頭	東海への出入口を固める中堅古人層グラス。墳丘ははっきりしない。全長3mの片袖式横穴式石室の玄室のみ残る。	奈良県⑪
奈良県宇陀市榛原上井足	高田垣内古墳群・室の谷1号墳	2	18図-1.2 1は、外径3.6×3.3cm、2は外径3.45×3.3cm	TK43 (初葬から追葬までこの時期)	百濟系の鏡座金具あり。直径15mほどの円墳。全長8.3m以上の左片袖式横穴式石室。	奈良県⑫
奈良県宇陀市榛原足立	堂屋敷古墳	1	図32-2(径2.8cm)	7世紀前葉	墳形規模不明。全長2.8m以上の片袖式横穴式石室。	奈良県⑯
奈良県平群町三里	三里古墳	2	27図-J1.J2(J2は、外径2.7×2.5cm、J1は、径2.6cm)	6世紀中葉~後葉	平群谷の紀氏系の首長墳。全長35mの前方後円墳。全長12mの両袖式横穴式石室。	奈良県⑫
奈良県高市郡明日香村上	上5号墳	2	図40図-E16.E17(16は径2.2×2.09cm、17は径2.2×2.1cm)重量の記載はないが「中空」と推察されている	6世紀後半~末	直径17mの円墳。現存長さ7.41mの片袖式横穴式石室。石室形状やミニチュア炊飯具から百濟系渡来人が被葬者。	奈良県⑬
奈良県桜井市粟原	粟原カタソバ5号墳	1	図107図 (径3.067×3.255cm、重さ5.27g) 報告書では中空の指摘なし	7世紀前葉	径12m前後の円墳か。全長8.0m以上の両袖式横穴式石室。	奈良県⑭

奈良県桜井市粟原	粟原カタソバ6号墳	1	図115-2(径2.973×3.259cm、重さ12.98g)報告書では中空の指摘なし	7世紀前葉～中葉	墳形規模は不明。全長7.3m以上の両袖式横穴式石室。	奈良県④
和歌山県と歌山市岩橋	前山B36号墳	1	耳環5 3.05×2.9cm	6世紀末～?	円墳で全長5.35m以上の横穴式石室。	和歌山県①
和歌山県と歌山市岩橋	前山A87号墳	1	小型	6世紀末～?	直径10mの円墳で横穴式石室。	和歌山県①
鳥取県米子市觀音寺	大船山C-8号横穴墓	2	82図-329.330(329は径3.43×3.15cm,330は径3.48×3.19cm)	6世紀後半～7世紀初頭	全長3.75mの横穴墓。	鳥取県①
鳥取県鳥取市浜坂	浜坂横穴墓群	1	図7-111(径2.3×2.45cm)	7世紀前葉	横穴墓群	鳥取県②
鳥取県八頭町福本	福本70号墳	2	10図-61,62(破損しており同一個体の可能性有り)	7世紀前葉～中葉	東西最大幅15mの八角墳。全長6.9mの片袖横穴式石室。銅匙、馬具、双龍環頭大刀あり。近隣に土師百井廃寺	鳥取県③
鳥取県琴浦町櫛下	大高野3号墳	2	写真のみ。報告書では言及していない	6世紀末 (TK209)	直径20mの円墳。全長3.1mの横穴式石室	鳥取県④
鳥取県江府町保野	北谷ヒナ4号横穴墓	1	図16-E6(径2.2cm、両端部は破損)	7世紀初頭 (TK209)	玄室長2.09m。15体の埋葬	鳥取県⑤
島根県安来市汐手が丘	小汐手B-2号横穴墓	1	3.6×3.3cm、中空銀環?	6世紀末～7世紀初頭		島根県①
島根県安来市植田町	鷺の湯病院跡横穴墓	2	大型銅板鍍金中空耳環2 径3.3cm	出雲3期	全長41.5mの前方後円墳(寺輪古墳)が後背墳。新興首長層。	島根県②
島根県松江市美保関町福浦	福浦法田峠2号墳	1	14図-13(径2.9cm)	出雲4～5期	直径9.3m以上の円墳。全長6.3m以上の両袖式横穴式石室。海洋の小首長墓。	島根県③
島根県松江市美保関町海崎	海崎3号墳	1	第26図-1(径2.3cm) X線写真で空洞がある	出雲5期	群集墳。径10mの外護列石を持つ円墳。横穴式石室を持つ。	島根県⑩
島根県出雲市上塩治町	上塩治築山古墳	2	28図-1(中空金装銀環 径3.9×3.44cm)、28-2(中空金装銀環 径3.83×3.39cm)	6世紀後葉～7世紀初頭	直径46mの円墳(周溝含めると77m以上)。全長14.6mの両袖式横穴式石室。広域首長墓。	島根県④⑤
島根県出雲市上塩治町	半分古墳	1	102図-3(中空銀環片(東博藏)、径3.5cm前後)	6世紀中葉～後葉(出雲3期古)	全長40～45mの前方後円墳。全長9.4m以上の横穴式石室。大念寺古墳被葬者の次席級。	島根県④⑥
島根県出雲市上塩治町	上塩治横穴墓群第22支群2号横穴墓	1	171図-11(中空銅板、径3.5×3.0cm、重さ7.6g)	出雲6a～d期	全長3.3mの横穴墓。石床2基。	島根県⑦
島根県出雲市上塩治町	上塩治横穴墓群第33支群7号横穴墓	1	86図-30(中空銅板、径3.2×3.0cm)	出雲5期	全長3.75mの横穴墓。組合式石棺1基。	島根県⑦
島根県出雲市上塩治町	大井東谷A-1号横穴墓	1	径3.5cm前後、中空銅板鍍銀	7世紀前葉	横穴墓群。	島根県⑧
島根県出雲市上塩治町	三田谷I 遺跡SD06	1	74図-8(中空銅板耳環、径3.5×3.2cm、重さ4.6g)	出雲6a～	河道出土。	島根県⑨
島根県出雲市上塩治町	三田谷4号墳石室	1	13図-1(中空銅板金貼、径2.4×2.2cm、重さ3.9g)	出雲4～5期	墳形・規模は不明。全長4.4mの横穴式石室。	島根県⑩
島根県出雲市古志町	大堀古墳	2	中空銅板金貼耳環 径3.3cm、中空銅板金貼耳環 径3.25cm	出雲5期	全長4.65m以上の横穴式石室。円筒埴輪あり。	島根県⑪
島根県出雲市古志町	放れ山横穴墓群1号横穴墓	1	16図-3(中空銀環 2/3残存 径3.0×2.7cm、重さ2.5g)	出雲4期(横穴墓型式)・6期(須恵器)	全長2.5mの横穴墓。	島根県⑫
島根県出雲市知井宮町	浅柄北7号横穴墓	2	115図-8(中空銅板、径3.2×3.0cm、重さ5.9g)、115図-9(中空銅板、径3.0×2.9cm、重さ5.5g)	出雲5期	全長約3mの横穴墓。	島根県⑬
島根県出雲市知井宮町	小浜山C-2号横穴墓	2	41図-22(中空銅板金環、径3.2×3.1cm)、41図-23(中空銅板金環、径2.9×2.8cm)	出雲4期	全長2.1mの横穴墓。	島根県⑭
島根県出雲市美談町	美談神社2号墳	1	12図-1(銅芯金箔貼中空金環、径2.935×2.80cm、重さ12.57g)	出雲4～6bc期	一辺13mの方墳。全長4.9mの両袖式横穴式石室。	島根県⑮
島根県飯南町八神	谷川遺跡 旧河道	1	61図-51(径2.3×2.1cm)	不明	縄文～奈良時代の河道中出土。	島根県⑯
島根県隱岐郡知夫村仁夫	高津久2号横穴墓	2	13図-4(中空銅芯鍍金、径2.26×2.165cm、重さ2.6g)、13図-5(中空銅芯鍍金、径2.32×2.17cm、重さ2.8g)	7世紀前葉～後葉	横穴墓中に最大規模かつ造墓基点。全長4m。	島根県⑰
岡山県岡山市北区柏谷	西山2号墳	1	42図-23(径2.91×2.74cm、重さ5.25g)	6世紀後半～7世紀初頭	群集墳。直径15.5mの円墳。全長9.3mの片袖式横穴式石室。	岡山県①
岡山県倉敷市琴海	琴海1号墳	2	22図-97、22図-98.97は径3.25×2.92cm、重さ5.6g.98は外径3.27×2.94cm、重さ5.4g	6世紀末～7世紀前葉	小規模首長墳か。直径12mの円墳。全長7.4m以上の無袖式横穴式石室。	岡山県②
岡山県総社市久代	沖田奥2号墳	1	140図-2(径3.0cm、破壊しているが現重量は2.6g)	7世紀前葉	直径14mの円墳。全長6.85mの右片袖式横穴式石室。	岡山県③
岡山県赤磐市山陽三丁目	岩田14号墳	2	109図-13.14(13は径2.55×2.4cm、14は径2.55×2.4cm)	6世紀後半～7世紀初頭	中規模首長墳。直径20mの円墳。全長11.8mの片袖式横穴式石室。	岡山県④
岡山県赤磐市石	平岩古墳	1	M110(径3.6×3.8cm、重量9.07g)	6世紀後半～7世紀初頭	長方形墳か? 現存長9.1mの無袖式横穴式石室	岡山県⑪
岡山県津山市戸脇	コウデン2号墳	3		6世紀後葉	直径15.5mの円墳。全長8.2m以上の横穴式石室。	岡山県⑤
岡山県津山市金屋	的場2号墳	1	26図-45(径3.1cm)	7世紀前葉	小規模な首長墳。直径10m程度の円墳。全長5.6mの無袖式横穴式石室・帽石。	岡山県⑥
岡山県美作市大原町川戸	川戸2号墳	2	23図-5.23図-6(两者径3.2cm)	7世紀前葉	英田郡北部の首長墓で一辺17mの方墳。全長12.3mの片袖式横穴式石室。	岡山県⑦
岡山県勝央町大平台	工業団地内第II調査区10号墳(茂平1号墳)	2	26図-40(径3.3×3.0cm).26図-41(径3.2cm)	7世紀初頭～前半	群集墳。直径13×11mの楕円墳。全長6.4mの無袖式横穴式石室。	岡山県⑧
岡山県勝央町植月中	畠ノ平10号墳	1	49図-33(銀製)	7世紀初頭～前葉	群集墳。直径9.5×8.5mの円墳。全長5.7mの無袖式横穴式石室。	岡山県⑨
岡山県北房町下岩部	空古墳	1	8図-1(径3.4×3.0cm)	6世紀後半～7世紀中葉	直径11.5×9mの楕円墳。全長8.9mの片袖式横穴式石室。	岡山県⑩
広島県広島市安佐南区緑井	四本寺第2号墳	1	22図-110(径3.8×3.15cm、現状で重さ6.0g)	7世紀前葉～後葉	一辺15m前後の方墳。全長6mの無袖式横穴式石室。	広島県①
広島県三次市三良坂町灰塚	見尾山第1号墳	1	60図-131(破片)	7世紀初頭	直径17.2mの円墳。全長10.2mの横穴式石室。	広島県②
広島県三次市三良坂町灰塚	田戸北古墳群SX01					広島県③
広島県三次市三良坂町灰塚	田戸南第1号墳					広島県④
広島県三次市後山町	札場古墳	1	第III-10図-32(径3.2×3.0cm、重さ2.6g)	6世紀後半～7世紀前葉	直径9mの円墳。全長5.1mの無袖式横穴式石室。単独の小首長墳。	広島県④
広島県安芸高田市八千代町土師	土師大迫古墳	1	14図-39(外径3.2×3.1cm、重さ8.35g)	TK43～209	直径12mの円墳。全長5.56m以上の無袖式横穴式石室。小首長墳。	広島県⑤
広島県山県郡北広島町南方	石塚第1号墳	1	8図-1(径2.2cm)	7世紀前葉～中葉	直径11mの円墳。全長7.2mの無袖式横穴式石室。小首長墳。	広島県⑥
広島県三原市沼田西町	銭神第5号墳	1	40図-5(破損しているが復元径3.0cm)	6世紀末～7世紀初頭	群集墳の造墓基点。直径6.4mの円墳か。全長4.36mの無袖式横穴式石室。	広島県⑦

広島県東広島市高屋町小谷	志村第7号墳	2	第4-45図-60.61(60は径2.95×2.8cm、重さ3.0gで一部欠損/61は径2.65cm、重さ4.4gで一部欠損)	7世紀前葉	直径6.5mの円墳。残存長3.1mの横穴式石室。	広島県⑧
山口県萩市見島	見島ジーコンボ123号墳	1	第9図-Hbr 1(外径2.83×2.95cm重さ5.67g)	7世紀後半	山口県で唯一。全長3.75mの無袖式横穴式石室。	山口県①
山口県山口市江崎	大浦8号墳	1	第72図-15(外径4.58cm、半損)	6世紀末(TK209)	群集墳。直径10.8mの円墳。全長5.6mの両袖式複室横穴式石室。馬具副葬有り	山口県②
山口県山口市江崎	梅ヶ崎13号墳	1	第89図-28(外径破損、径3.3cm前後か)	6世紀後半(TK43~TK209)	群集墳。直径約10mの円墳。全長2.4m以上の両袖式横穴式石室か	山口県③
山口県下関市菊川町上岡枝	植松7号墳	2	第16図-1・2(径2.5×2.4cm、重さは1が6.3g、2が6.9g)	6世紀末(TK209)	墳丘規模不明、形状不明。全長2.1m以上の両袖式横穴式石室	山口県④
山口県下関市菊川町上保木	金山2号墳	2	36・37(共に銀鏡、36は外径3.0cm、重さ2.7cm、37は3.1×2.8cm)	7世紀初頭~中葉	墳形・規模不明。(15m程度の円墳か)。横穴式石室の奥壁付近のみ残存。素環の馬具あり	山口県⑤
山口県周南市久米	上岡原6号墳	1	第42図-6(外径3.3×3.1cm、重さ9.7g)※報告書では未指摘	6世紀後半(TK43~TK209)	直径約9mの円墳。全長6.6mの片袖式横穴式石室	山口県⑥
山口県周南市久米	上岡原7号墳	1	第55図-26(外径3.3×3.1cm、重さ7.9g)※報告書では未指摘	6世紀後半(TK43~TK209)	直径約9mの円墳。全長3.3mの片袖式横穴式石室	
徳島県板野郡上板町泉谷	柿谷遺跡第10調査区4号墳	1	58図-204(径3.05cm×2.95cm)	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径8.5mの円墳。全長6.8mの疑似両袖式横穴式石室。	徳島県①
徳島県板野郡上板町神宅	山田1号墳	1	22図-112(径3.1cm×2.85cm)	6世紀後葉~7世紀前葉	群集墳の造墓基点。直径10mの円墳。全長6mほどの横穴式石室痕跡。	徳島県①
徳島県美馬市美馬町荒川	海原古墳	2	第5図-4.5(4は径3.3×3.0cm、重さ7.44g、5は径3.2×2.9cm、重さ6.25g)	6世紀後葉	墳形・規模不明。全長8.4mの「段塚型」横穴式石室	徳島県②
香川県高松市西春日町	南山浦11号墳	1	26図-393(径4.0cm)	7世紀初頭	群集墳の造墓基点の中首長墓。直径12mの円墳。全長9.3mの両袖式横穴式石室。	香川県①
香川県高松市香南町岡	城所山2号墳(1号墳の可能性もあり)	2	28図-68(径3.2×3.55cm、重さ7.8g)、69(径3.15×3.5cm、重さ7.2g)	6世紀末~7世紀初頭	直径12mの円墳。全長2.8mの無袖式横穴式石室。	香川県②
香川県善通寺市善通寺町	北原2号墳	5	23図-115.116.117.118. J18(115は外径3.0×2.8cm、重さ5.36g)、116は外径2.9×2.7cm、重さ4.51g)、117は外径2.8×2.6cm、重さ4.04g)、118は外径2.8cm、重さ4.06g)。J18は破片化している)	6世紀後葉~7世紀初頭	中堅首長墓。直径15mの円墳。全長7.6mの両袖式横穴式石室(第1石室)。	香川県③
香川県善通寺市善通寺町	北原3号墳	2	11図-25(径2.5cm)、26(外周が破損)共に中空銀環	7世紀初頭	小規模首長墳。直径15mの円墳。全長3.2m以上の片袖式横穴式石室。	香川県③
香川県善通寺市善通寺町	宮が尾1号墳	2	53図-028.029(28は径2.7×2.55cm, 29は破片)	7世紀初頭	中堅首長墓。直径22mの円墳。全長9.2mの両袖式横穴式石室。	香川県④
香川県善通寺市善通寺町	宮が尾2号墳	1	88図-060(径2.55×2.35cm)	7世紀初頭	中堅首長墓。直径13mの円墳。全長7.5mの片袖式横穴式石室。	香川県④
香川県善通寺市大麻町	夫婦岩1号墳	1	51図-1(径5.9×5.5cm)?	6世紀後葉~7世紀初頭	直径12~9.6mの円墳。全長8.3mの両袖式横穴式石室。	香川県⑤
香川県善通寺市善通寺町	菊塚古墳	2	第33図-33.34(33は径1.86×1.905cm、重さ2.66g)、34は径1.835×1.925cm、重さ3.15g)	6世紀後葉~7世紀初頭	墳長64m・周堤を含めた全長90mの前方後円墳。全長6mの横穴式石室に石屋形を納める。馬具、銀製空玉あり	香川県⑪
香川県三豊市財田町吉田	吉田4号墳	1	破片で径3cm程度			香川県⑥
香川県坂出市加茂町	サギノクチ1号墳			6世紀後葉	径10mの円墳。全長7mの両袖式横穴式石室。石室壁面に木ノ葉・舟などの線刻壁画	香川県⑯
香川県さぬき市造田は弘	北山八坂古墳2号石室	2	35図-56.57(56は外径2.9×2.84cm、重さ6.1g)、57は外径2.98cm。)	7世紀前葉	直径15mほどの円墳。1号石室は両袖式横穴式石室。2号石室は無袖式。	香川県⑦
香川県さぬき市寒川町石田東	糞神5号墳	1	12図-58(外径3.0×3.3cm、重さ6.9g)	6世紀末~7世紀前葉	群集墳。径14.0~12.6mの楕円墳。全長4.17mの両袖式横穴式石室。	香川県⑧
香川県東かがわ市白鳥	成重2号墳	2	291図-36.37(共に径2.0cm)	7世紀前葉	群集墳。径14.0~15.0mの楕円墳。2基の横穴式石室。2号石室は全長3.3m以上の両袖式横穴式石室。	香川県⑨
香川県木田郡三木町井上	塚谷古墳	1	141図-2165(径1.7×1.65cm)。	7世紀中葉	直径14mの円墳。全長5mの横穴式石室痕跡。	香川県⑩
香川県香川郡直島町風戸	喜兵衛島1号墳	2	径2.75cm、径2.6cm	7世紀前葉	直径12mの円墳。全長6.94mの無袖式横穴式石室。	香川県⑪
香川県三豊市山本町辻	山辺古墳	2	第5図-9.10(径2cm、銀環)	7世紀中葉~後葉	直径10m程度の円墳。横穴式石室の玄室奥部分のみ残存	香川県⑫
香川県三豊市仁尾町仁尾	加嶺大麻古墳	1	第2図(径2.45×2.3cm)	6世紀末~7世紀初頭	規模・墳形不明。横穴式石室の玄室奥部のみ残存	香川県⑬
愛媛県松山市石風呂町甲	鶴ヶ峠古墳群H区9号墳	2	51図-234(径2.65×2.45cm)、51図-235(径2.65×2.45cm)	7世紀初頭	直径9mの円墳。全長6m以上の両袖式横穴式石室。	愛媛県①
愛媛県松山市石風呂町甲	鶴ヶ峠古墳群H区7号墳	1	33図-116(外側が破損)	7世紀初頭	群集墳造墓の基点。直径20mの円墳。全長9mの両袖式横穴式石室。	愛媛県①
愛媛県松山市東石井乙	東山蔵が森8号墳A石室	1	64図-4.金製	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径14mの円墳。全長6.8mの両袖式横穴式石室。	愛媛県②
愛媛県松山市南江戸	大池東1号墳	1	24図-31(外径2.4cm)	7世紀初頭~前葉	群集墳。直径22mの円墳。全長7.75mの両袖式横穴式石室。	愛媛県③
愛媛県松山市南江戸	大池東2号墳	2	52図-95(径3.0cm、重さ4.79g)、98(径3.0cm、重さ3.01g)	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径19.75~16mの円墳。全長2.25m以上の横穴式石室。	愛媛県③
愛媛県松山市衣山5丁目	御産所11号墳	1	第9図(径3.3×3.2cm、重さ11.2g)報告書では中空耳環と言及しない	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。直径8m程度の円墳。全長2.8mの堅穴式石室。	愛媛県⑥
愛媛県松山市才之原	小山田1号墳	2	図34-80.81(80は径3.16×2.98cm、重さ6.5g)、81は径3.13×3.0cm、重さ7.7g)報告書では中空耳環の記載なし	6世紀後葉~末	群集墳。12.5×8.9mの方墳。全長6mの両袖式横穴式石室。	愛媛県⑦
愛媛県松山市鷹子町	五郎兵衛谷古墳	1	図版21(径3.0cm、重さ7.8g)	6世紀末~7世紀初頭	群集墳。径10×8mの楕円墳。全長4mの横穴式石室。三累環頭大刀あり	愛媛県⑧
愛媛県松山市船ヶ谷町	船ヶ谷三ッ石4号墳	1	第37図-101(径3.3×3.1cm、重さ7.189g)報告書では中空耳環の記載は無い	6世紀後葉~7世紀中葉	群集墳。墳形・規模は不明。玄室の全長は4.1m。素環馬具あり	愛媛県⑨
愛媛県今治市片山	片山4号墳	2	第25図-6.7(6の外径3.01×2.88cm、重さ4.66g)、7の外径2.54×2.25cm、重さ3.37g)銅地金貼り	6世紀後葉~7世紀前葉	直径20m程度の円墳。玄室長さ4.3mの横穴式石室。馬具あり	愛媛県④

愛媛県今治市片山	片山7号墳	1	第21図-1(外径3.26×2.96cm、重さ6.06g、銀環)	6世紀後葉～7世紀前葉	一辺12m程度の方墳か。全長6mの横穴式石室。馬具あり	愛媛県④
愛媛県四国中央市下柏町	経ヶ岡古墳	2	第31図-3.4(3は径2.53×2.33cm、重さ6.36g。4は径2.53×2.49cm、重さ6.17g)相似形の左右個体を銀鑲付	6世紀初頭～6世紀後葉	全長30mの前方後円墳。全長7.6mの無袖式横穴式石室。金銅装馬具、金冠、鉄地金銅貼の韁、	愛媛県⑤
福岡市博多区立花寺	立花寺2号墳	1	Fig.18-38(径2.2×2.15cm)	6世紀後半～末	群集墳。直径10mの円墳。全長4.25mの両袖式横穴式石室。	福岡県①
福岡市南区柏原	大牟田19号墳	1	No.3			福岡県②
福岡市南区柏原	大牟田43号墳	2	7図-1(径3.0cm)	6世紀末～7世紀初頭	小規模な円墳か。全長4.0mの両袖式横穴式石室。	福岡県③
福岡市城南区片江	片江6号墳	2	29図-3.4(径2.75cm)	6世紀後半～7世紀初頭	直径10.5mの円墳。全長7.42mの両袖式横穴式石室。群集墳。	福岡県④
福岡市東区三苦	三苦10号墳	1	242図-3(径3.3×2.95cm)	7世紀前半	群集墳。墳丘は直径10m以下。横穴式石室は玄室部分の1.44mのみ残る。	福岡県⑤
福岡市西区広石	広石IV-2号墳	2	83図-5と非掲載品 5は2.3×2.2cm	6世紀後葉	群集墳。直径12mの円墳。全長6.18mの両袖式横穴式石室。	福岡県⑥
福岡市西区羽根戸	羽根戸B-11号墳	1	径3.2×2.8cm	6世紀中葉	片袖式横穴式石室。	福岡県⑦
福岡市西区桑原	桑原石ヶ元17号墳	1	図108-40=30964(径2.18×2.07cm、重さ1.64g、木芯)	6世紀中葉(新しくてもTK10)	群集墳の造墓基点。直径14mの円墳。横穴式石室は玄室の3.3mしか残らない。	福岡県⑧
福岡市西区桑原	桑原石ヶ元28号墳	2	図30612(径2.45×2.34cm、重さ0.83g)、図30624と図30611は同一個体か。木芯	7世紀後葉	群集墳。直径12mの円墳。全長5.28mの両袖式横穴式石室。	福岡県⑨
福岡市西区元岡	元岡N-3号墳	2	92図-57(径2.7×2.75cm)、92図-58(径2.65×2.6cm)	7世紀後葉	群集墳。直径9mの円墳。横穴式石室は玄室部分2mが残る。	福岡県⑩
福岡市西区元岡	元岡G-6号墳	2	33図-30.31(30は径2.5×2.3cm、31は径2.4×2.3cm)	7世紀初頭	直径18mの円墳。全長5mの両袖式横穴式石室。「庚寅」銘大刀と本邦最大の銅鈴。	福岡県⑪
福岡県北九州市小倉南区下吉田	下吉田41号墳	1	56図-2(径2.65×2.4cm、重さ2.72g)	6世紀末～7世紀初頭	直径10.7mの円墳。全長3.5m以上の両袖式横穴式石室。	福岡県⑫
福岡県北九州市小倉南区長尾	八旗神社1号墳	1	9図-29(径1.88×1.83cm、重さ1.7g)	6世紀末～7世紀初頭	直径10mの円墳。全長7.6m以上の複室構造横穴式石室。双龍頭大刀・馬具を持つ新興首長。	福岡県⑬
福岡県春日市上白水西浦	西浦1号墳	2	5図-1.2(1は3.1×3.0cm、2は3.05×2.9cm)	7世紀前葉	群集墳。直径7mの円墳。全長2.4mの両袖式横穴式石室。	福岡県⑭
福岡県古賀市薦野	古野C-19号墳	2	106図-1.2(径1.9cm、銀製)	7世紀初頭	群集墳。墳形墳丘規模は不明。全長3.8mの両袖式横穴式石室。	福岡県⑮
福岡県古賀市薦野	古野C-20号墳	2	109図-1.2(径2.4cm、銅鍍金)	7世紀初頭	群集墳。墳形墳丘規模は不明。横穴式石室は玄室の2.05mが残る。	福岡県⑯
福岡県古賀市薦野	古野E-13号墳	1	135図-1(径2.1cm、銀製)	7世紀中葉	群集墳。直径18m程度の円墳。横穴式石室は玄室部4.8mのみ残る。	福岡県⑰
福岡県宮若市山口	小原8号墳	1	Fig.100(復元径3cm)	7世紀初頭	群集墳。直径12mの円墳。全長3m程度の両袖式横穴式石室痕跡。	福岡県⑱
福岡県宗像市河東	相原1号墳	1	Fig.5(外径3.05×2.85cm、金製)	6世紀末	群集墳。直径12m以上の円墳。全長2.32m以上の両袖式横穴式石室。	福岡県⑲
福岡県宗像市朝町	浦谷D-8号墳	1	Fig.78-8(径2.2cm)	7世紀初頭	直径10mの円墳。全長1m以上の横穴式石室。	福岡県⑲
福岡県宗像市朝町	浦谷H-2号墳	1	Fig.80-1(径2.2cm)	7世紀前葉	墳形規模は不明。全長3.7m以上の無袖式横穴式石室。	福岡県⑲
福岡県行橋市福童	渡筑紫9号墳	1	40図-20(径2.2×2.0cm、破損しているが重さ1.84g)	7世紀前葉	直径8.6mの円墳。全長3.62mの両袖式横穴式石室。群集墳。	福岡県⑳
福岡県宮若市上有木	南ヶ浦4号墳	1	45図-25(径2.6×2.4cm)	7世紀初頭	群集墳。直径12mほどの円墳。全長6.6mほどの両袖式横穴式石室。	福岡県㉑
福岡県福津市奴山	奴山34号墳	1	径2.6cm	6世紀後葉	直径24mの円墳。両袖式横穴式石室。	福岡県㉒
福岡県大野城市牛頭	牛頭中通り13号墳	2	62図-1.2(1は3.15×2.94cm、2は3.15×3.05cm)	7世紀前葉	群集墳。直径10mほどの円墳。全長6.15mの両袖式横穴式石室。	福岡県㉓
福岡県大野城市乙金東	善一田2号墳	1	第15図-39(径3.03×2.8cm、重さ8.3g)	6世紀末～7世紀初頭	群集墳。径13mの円墳。全長8.0mの複室構造両袖式横穴式石室。内蔵。馬具あり。(水沼君か)	福岡県㉔
福岡県那珂川市中原	觀音山古墳群 平石IV-1号墳	2	11図-1.2(それぞれ径2.5cm、重さ5g、6g)	6世紀末～7世紀前葉	群集墳。直径5mほどの円墳か。全長2mの両袖式横穴式石室。	福岡県㉕
福岡県朝倉市入地	狐塚古墳	1	5図-1(直径3.75×3.5cm)	6世紀後葉～7世紀前葉	首長墳。直径40mを超える円墳。全長15mの複室構造の横穴式石室で線刻壁画古墳。	福岡県㉖
福岡県岡垣町高倉	繩手1号墳	1	14・銀製(径2.5cm)	7世紀初頭	群集墳。全長4mの両袖式横穴式石室。	福岡県㉗
福岡県築上郡上毛町土佐井	土佐井1号墳	1	1(直径3.0×2.9cm)	7世紀初頭	群集墳。全長4.8m以上の横穴式石室。	福岡県㉘
福岡県築上郡上毛町下唐原	新池南古墳	1	41図-1(径3.3×3.05cm)	6世紀後葉～7世紀前葉	直径15mほどの円墳。全長8mの両袖式横穴式石室。	福岡県㉙
福岡県築上郡上毛町下唐原	皿山古墳群III-2号墳	1	128図-28(径2.4×2.2cm、破損するが重さ1.88g)	6世紀末～7世紀前葉	直径13mの円墳。全長7.3mの両袖式横穴式石室。	福岡県㉚
福岡県築上郡上毛町下唐原	花立山6号横穴墓	1	第48図-7(外径3.4～3.1cm、重さ10.2g)	6世紀末～7世紀中頃	全長2.15mの横穴墓	福岡県㉛
福岡県築上郡上毛町下唐原	金居塚6号横穴墓	2	第64図-9.10(9は外径2.8×2.6cm、10は外径2.9cm程度で半損)	7世紀中葉	玄室長さ2.4m	福岡県㉛
福岡県築上郡上毛町下唐原	金居塚8号横穴墓	2	第74図-59.60(59は外径2.9×2.8cm、60は半損)	7世紀初頭～前葉	玄室長さ2.8m	
福岡県築上郡上毛町下唐原	金居塚11号横穴墓	1	第85図-22(外径2.7×2.6cm)	7世紀初頭～前葉	玄室長さ2.2m	
福岡県田川市伊田	経塚1支群-6a号横穴墓群	2	第59図-6.8(6は径2.57cm、重さ2gで木芯。8は径2.52cm、重さ2gで木芯)	7世紀前葉	玄室長さ6m	
福岡県飯塚市川島	川島古墳	1	第8図-47(径3.5×3.3cm)	6世紀末	直径15mの円墳。全長6.7mの複室構造の両袖式横穴式石室。奥壁に彩色壁画あり。馬具あり	福岡県㉕
福岡県宗像市福元	船元久保遺跡III-4号横穴墓	1	径3.4cm×3.1cm	7世紀	70基以上の横穴墓群	福岡県㉖
福岡県みやま市高田町下楠田	東濃施古墳	1	第27図-4(径3.2×3.0cm)銀環	6世紀末	径22mの円墳。全長11.7m以上の両袖式複室構造横穴式石室。三累環頭、馬具	福岡県㉗
佐賀県鳥栖市牛原町	牛原原田遺跡ST05	1	24図-34(径3.1×3.05cm)	7世紀初頭	墳長55mの前方後円墳。全長9.3mの両袖式横穴式石室。首長墳。	佐賀県㉘

